区分1	基礎分野 科学的思考の基礎	授業科目名	倫理学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、長崎県技師会会長・日臨技副会長として種々の倫理的問題にも対応してきた。また、本校職員としても10数年、倫理学を担当してきた。

◆授業の目的・目標

コンプライアンスを含めた医療における倫理観を醸成する。

◆授業の概要・授業方針

スライドによる解説を中心に、身近な事例を紹介しながら、学生の発言を誘い、意見を聴きながら進めたい。また多くに発言する機会も設けるためにグループディスカッションも取り入れたい。

◆テキスト・参考資料等

生命倫理（教育出版）を中心に。資料としては医学書院のケースブック医療倫理を使用する。

◆成績評価の方法

出欠、グループ討議での発言などを参考にするが最終的には期末試験での評価とする。

	授業計画	チェック欄
第1回	人文科学・倫理とは、倫理（医療倫理）の歴史	
第2回	西洋・日本の医療倫理の歴史	
第3回	国内の医療倫理の歴史	
第4回	医療倫理に関する各種事象（ジュネーブ宣言など）	
第5回	生命倫理　（受精・妊娠・出産）	
第6回	生命倫理　（人の死）	
第7回	各種ハラスメント（ドクターハラスメント）	
第8回	医療現場における想定問題（1）	
第9回	医療現場における想定問題（2）	
第10回	予備	

区分6	基礎分野 科学的思考の基礎	授業科目名	数学（計算学）	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	古田　智春	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

高校数学の学習内容は学校により大きく異なるため、＊一定の基準を設け知識の共有を図る。

（＊臨床化学や医用工学概論の国家試験問題を参考）

◆授業の概要・授業方針

基礎力リサーチの結果を基にグループ分けし、グループ学習を中心とする。

小テストにより、グループ学習の進捗状況を確認する。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査技師をめざす人の基礎トレーニングドリル：化学同仁

資料

練習問題

小テスト

◆成績評価の方法

授業の出席率

グループ学習の様子

小テストの成績

授業計画		チェック欄
第1回 第2回	基礎力リサーチ	
第3回 第4回	基礎トレーニングドリル　Lesson １～３ （p.48～54）	
第5回 第6回	基礎トレーニングドリル　Lesson ４～６ （p.55～61）	
第7回 第8回	基礎トレーニングドリル　Lesson ７～９ （p.62～67）	
第9回 第10回	基礎トレーニングドリル　Lesson １０ （p.68～70）	

区分11	基礎分野 人間と生活・社会の理解	授業科目名	保健体育	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・生涯にわたって健康を維持・増進するための知識を身につける。
・自分のみならず、家族や周囲の人々の健康づくりに寄与する態度を身につける。
・将来、検査技師として働く場合に役立つ、健康に関わる科学的思考を身につける。

◆授業の概要・授業方針

・健康とは何かを考え、健康的な生活を実現するための知識や態度を身につけることを目的として、運動・栄養・休養などの観点から健康に関する話題を提供し、現代社会の様々な健康問題やその対策について考える授業を展開する。
・課題レポートの提出。

◆テキスト・参考資料等

・必要に応じて資料を配布する。
・参考書籍：「健康・スポーツ科学講義」第2版（杏林書院）

◆成績評価の方法

・授業課題レポートで評価
（期末試験は行わない）

授業計画		チェック欄
第1回	私のスポーツ歴	
第2回	わが国の健康と病気に関する背景と社会問題、生活習慣病の原因と予防	
第3回	体力とは何か、体力測定法	
第4回	運動のしくみ（エネルギー・筋・神経）	
第5回	運動のしくみ（呼吸・循環）	
第6回	運動のしくみ（内分泌）	
第7回	トレーニングの基礎理論と実践	
第8回	減量（ダイエット）の生理学	
第9回	運動と水分補給、熱中症、応急手当	
第10回	薬物・喫煙・飲酒・性感染症の健康への影響	

区分12	基礎分野 人間と生活・社会の理解	授業科目名	保健体育実習	単位数	0.5単位 （16時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・これからの学校生活を計画的に考える。
・良き友人関係を形成する。
・モラルを守り、協調性を養う。
・たくさん楽しむ。

◆授業の概要・授業方針

・1泊2日の宿泊研修を通して食事、運動、レクレーションおよび睡眠など様々な団体行動を行う。
・グループ毎の役割分担を決め、協力しやり遂げる。
・アンケートへの回答。

◆テキスト・参考資料等

・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・時間厳守ができているか
・団体行動ができているか
・率先垂範ができているか
・チーム活動ができているか
以上を総合的に評価する。

	授業計画	担当教員	チェック欄
第1回	日吉自然の家での宿泊研修（1日目） ・オリエンテーション ・アイスブレイク ・山道散策（未定） ・レクレーション（未定） ・夕べのつどい	坂口・古田・萬谷	
第2回		坂口・古田・萬谷	
第3回		坂口・古田・萬谷	
第4回		坂口・古田・萬谷	
第5回	日吉自然の家での宿泊研修（2日目） ・朝のつどい・ラジオ体操 ・清掃活動 ・野外炊飯 ・後片付け	坂口・古田・萬谷	
第6回		坂口・古田・萬谷	
第7回		坂口・古田・萬谷	
第8回		坂口・古田・萬谷	

区分15	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生化学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

生命を分子レベルで解き明かすことに興味をもち、国家試験出題基準に準拠し、ヒトの代謝を中心に学んでいく。

◆授業の概要・授業方針

教科書・パワーポイントを使用し、理解度を深めていく。練習問題による知識の定着を図る。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/生化学、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験・レポートによる評価

授業計画		チェック欄
第1回	細胞の機能と構造	
第2回	蛋白質	
第3回	酵素①Ⅰ～Ⅲ	
第4回	酵素②Ⅳ～Ⅵ	
第5回	代謝A　代謝総論	
第6回	代謝B　糖質の化学と代謝　Ⅰ糖質の化学	
第7回	代謝B　糖質の化学と代謝　Ⅱ糖質代謝	
第8回	代謝C　クエン酸回路とATP合成	
第9回	代謝D　脂質の化学と代謝　Ⅰ脂質の化学	
第10回	代謝D　脂質の化学と代謝　Ⅱ脂質の代謝	
第11回	代謝E　アミノ酸の化学と代謝　Ⅰアミノ酸の構造	
第12回	代謝F　ヌクレオチドの化学と代謝　Ⅰヌクレオチドの構造、Ⅱ核酸の構造	
第13回	代謝F　ヌクレオチドの化学と代謝　Ⅲ　ヌクレオチドの合成・Ⅳヌクレオチドの分解その他	
第14回	代謝G　代謝調節・代謝統合	
第15回	前期まとめ	

区分17	専門基礎分野 医学検査の基礎とその疾病との関連	授業科目名	微生物学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義を行う。

◆授業の目的・目標
微生物の形態、生理と機能など基礎的な分野を学び理解する。また、微生物と環境・人（疾病、予防）との関わりを学習し理解する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に小試験を交えながら進める。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点

授業計画		チェック欄
第1回	微生物検査とは（微生物検査の歴史・分類）	
第2回	細菌の形態と構造	
第3回	細菌の観察法と染色法	
第4回	細菌の代謝と発育	
第5回	細菌の発育と培養	
第6回	細菌の培養法	
第7回	細菌の同定	
第8回	遺伝・変異と遺伝子診断	
第9回	滅菌および消毒	
第10回	化学療法	
第11回	化学療法とワクチン	
第12回	正常細菌叢とその変動	
第13回	病原性と抵抗力	
第14回	バイオセーフティ・医療関連感染	
第15回	細菌検査の精度管理・感染症関連法規	

区分21	専門基礎分野 保健医療福祉と臨床検査	授業科目名	公衆衛生学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、日臨技副会長として法改正等にかかわった。また、別途法学を10数年講義をしており、その中で医療に関する法律を中心に授業を行っているが、公衆衛生と重複することも多く、その中でこの教科の主題である公衆衛生に視線を置き、授業を行ってきた経験を生かす。

◆授業の目的・目標

公衆衛生の歴史と成り立ち、更に医療従事者として、地域における実務等について学び社会人・医療人としての涵養に努める。

◆授業の概要・授業方針

スライドによる解説を中心に、テーマに沿った資料等の配布等。

◆テキスト・参考資料等

教科書　公衆衛生学2024年版（医歯薬出版社）

◆成績評価の方法

筆記試験による評価

授業計画		チェック欄
第1回	公衆衛生の概念、（公衆衛生の歴史、健康の概念、健康の保持増進と予防医学）	
第2回	公衆衛生の概念（健康管理の実際、ヘルスプロモーション、疾病・障害）	
第3回	衛生統計（人口動態統計、人口静態統計）	
第4回	衛生統計（疾病・障害統計）	
第5回	疫学	
第6回	母子保健	
第7回	学校保健	
第8回	成人保健	
第9回	高齢者保健	
第10回	精神保健、その他	

区分25	専門基礎分野 医用工学及び医療情報	授業科目名	情報科学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	船津　由季子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
民間企業においてプログラマーおよびインストラクターとして勤務
社内で使用していたシステムの操作方法をレクチャーする
また職業訓練校において、情報処理の授業、検定・国試対策などを受け持つ

◆授業の目的・目標
・情報活用試験3級合格
・情報処理の基礎能力をつける
・国家試験対策を兼ねる

◆授業の概要・授業方針
・テキストを使用し、一般的な情報処理の解説を行う
・プリントなどを使用し、ポイント説明を行う
・過去問題を使用し、時間計測・解説を行う

◆テキスト・参考資料等
改訂3版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト
（日本能率協会マネジメントセンター）
プリント、過去問題など

◆成績評価の方法
定期試験評価
課題提出

授業計画		チェック欄
第1回	科目・授業目標・検定対策の説明、J検の試験概要、メールアドレス取得など	
第2回	第1章　情報表現と処理手順	
第3回	第1章　情報表現と処理手順	
第4回	基数変換プリント	
第5回	基数変換プリント	
第6回	第2章　パソコンの基礎	
第7回	第2章　パソコンの基礎	
第8回	第3章　インターネットの基礎	
第9回	第3章　インターネットの基礎	
第10回	第4章　インターネットの利用	
第11回	第4章　インターネットの利用	
第12回	第5章　情報機器の基本操作	
第13回	第5章　情報機器の基本操作	
第14回	令和5年度後期J検3級問題　計測・解説	
第15回	令和5年度後期J検3級問題　解説	

区分35	専門分野 尿・糞便等一般検査	授業科目名	一般検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

基本的な実習技術の習得と検体の取り扱い方

◆授業の概要・授業方針

基本的な手技について学ぶ。技術を身に付けることを第1目標とし、楽しみながら取組むように促す。受身にならないようディスカッションも取り入れ、興味を持てる授業展開としたい。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「一般検査学」

◆成績評価の方法

期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	オリエンテーション＋尿の生成について	
第2回	尿量について、腎臓の解剖	
第3回	採尿時間と採尿方法について	
第4回	尿色調・赤色尿の鑑別	
第5回	小テスト（尿色調、混濁尿）、解答解説	
第6回	小テスト（混pH、比重）、解答解説	
第7回	小テスト（混pH、比重）、解答解説続き	
第8回	小テスト（やり直し）	
第9回	分光光度計の原理について	
第10回	糖尿病について①	
第11回	糖尿病について②	
第12回	小テスト（尿蛋白）	
第13回	小テスト（尿蛋白）、解答解説	
第14回	小テスト（尿糖・ケトン体）、解答解説①	
第15回	小テスト（尿糖・ケトン体）、解答解説②、まとめ	

区分36	専門分野 尿・糞便等一般検査	授業科目名	一般検査学実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

基本的な実習技術の習得と検体の取り扱い方

◆授業の概要・授業方針

基本的な手技について学ぶ。技術を身に付けることを第1目標とし、楽しみながら取組むように促す。受身にならないようディスカッションも取り入れ、興味を持てる授業展開としたい。実習班にて考察を行い、グループ学習の効果を体感する。

◆テキスト・参考資料等	◆成績評価の方法
医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「一般検査学」	期末試験

授業計画		チェック欄
第1回 第2回	基本的な器具の操作について①	
第3回 第4回	基本的な器具の操作について②	
第5回 第6回	混濁尿の鑑別［自己尿にて実施］	
第7回 第8回	尿pH［試験紙法の原理について実習］	
第9回 第10回	尿比重［浮秤法、屈折計法、試験紙法の原理について実習］	
第11回 第12回	尿蛋白定性検査法［煮沸法、パーディー法］	
第13回 第14回	尿蛋白定性検査法［スルホサリチル酸法、ヘレル法、ロバート変法］	
第15回 第16回	尿蛋白定性検査法［試験紙法の原理について実験］	
第17回 第18回	尿蛋白定量検査法［KC法、マイクロTP（ピロガロールレッド）法］	
第19回 第20回	尿糖定性検査法［ベネディクト法、ニーランデル法］	
第21回 第22回	尿糖定性検査法［試験紙法の原理について実習］	
第23回 第24回	尿糖定性検査法［ソモジー法］	
第25回 第26回	尿ケトン体検査法［ランゲ法、ロテラー・吉川変法、レガール法、試験紙法］	
第27回 第28回	尿ビリルビン定性検査法［ロザン法、ハリソン法、ワトソン・ホーキンソン法］	
第29回 第30回	尿ウロビリン体検査法［（ウロビリノゲン＝ワーレスダイヤモンド法）、ウロビリン体＝シュレージンガー法（自己尿にて実施）］	

区分57	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	検査機器総論	単位数	1単位 （24時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	諸隈　博	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

39年間の臨床検査業務（ルーチンワーク、時間外業務）において、血液検査室・細菌検査室・生化学検査室・病理検査室・生理検査室等で使用する化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、滅菌装置、分光光度計、顕微鏡装置、純水製造装置等について基本的なことを経験している。

◆授業の目的・目標

①検査に必要な機器や装置に関する基礎的な知識の習得を目的とする。
②実際に機器や機器や装置に触れることで原理や構造の理解を深め、保守管理まで含めた正しい取り扱いを習得する。

◆授業の概要・授業方針

①検査機器・装置の原理および取り扱いについて基礎的な講義を行い、日を改めて実習を行う。
②また、国家試験を意識した内容・テストも織り交ぜて行い、3年次国試対策の基礎ともする。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座　検査機器総論/医歯薬出版
・講師作成資料　　など

◆成績評価の方法

・出欠状況　・定期試験

	授業計画	チェック欄
第1回	第1章　検査機器学総説　　第2章　共通機械器具の原理・構造　A. 化学容量器	
第2回	第2章　B. 秤量装置　C. 遠心分離装置	
第3回	第2章　実習　（天びん、遠心分離装置）	
第4回	第2章　D. 分離分析装置	
第5回	第2章　E. 攪拌装置　F. 恒温装置　G. 保冷装置　H. 滅菌装置	
第6回	第2章　実習（撹拌装置～滅菌装置）	
第7回	第2章　I.測光測定装置	
第8回	第2章　J. 顕微鏡装置　1）	
第9回	第2章　J. 顕微鏡装置　2）	
第10回	第2章　実習　（顕微鏡装置）	
第11回	第2章　K. 電気化学装置　L. 純水製造装置	
第12回	第2章　実習　（電気化学装置、純水製造装置）	

区分59	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	情報処理技術実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　前期	担当教員	船津 由季子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
民間企業においてプログラマーおよびインストラクターとして勤務
社内で使用していたシステムの操作方法をレクチャーする
また職業訓練校・高校・委託訓練などで、Excel・Wordの基本・応用操作の授業、検定対策などを受け持つ

◆授業の目的・目標
Excel・Wordの基本操作を習得する

◆授業の概要・授業方針
テキストを使用し、操作解説を行う
基本的にはテキストをメインとするが、より使いやすい操作または一般的な操作についても説明する

◆テキスト・参考資料等
30時間アカデミック　Office2021　Windows 11対応（実教出版）

◆成績評価の方法
定期試験評価
課題提出

授業計画		チェック欄
第1回	序章　コンピュータとインターネット、1章　Windows	
第2回	1　Excelの基礎知識、2　データの入力・編集、3　表の作成	
第3回	3　表の作成、4　表の印刷	
第4回	5　いろいろな数式	
第5回	5　いろいろな数式	
第6回	6　グラフと図形	
第7回	6　グラフと図形	
第8回	7　データベースの利用	
第9回	8　ピボットテーブル、付録　レポート作成のコツ	
第10回	1　Wordの基礎知識、2　文書の作成	
第11回	3　ページ設定と文書の印刷、4　表の作成	
第12回	5　文書の編集	
第13回	6　表現力をアップする	
第14回	7　長文作成をサポートする	
第15回	8　ExcelデータをWord文書に利用する	

区分3	基礎分野 科学的思考の基礎	授業科目名	社会学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・医療人になるにあたって、医療の歴史、医療制度、医療提供体制についての知識を身につける。
・国家試験出題基準の公衆衛生学に関連した衛生行政・関係法規に強くなる。
・医の倫理と患者の心理を学び、医療従事者としての心構えを身につける。

◆授業の概要・授業方針

・テキストに準じた授業とする。
・上記以外にインターネット等を用いて長崎県の医療計画を学び、現状を把握する。
・課題レポートの提出。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座　保健医療福祉概論　第1版　（医歯薬出版）
・最新臨床検査学講座　公衆衛生学　2023年版　（医歯薬出版）

◆成績評価の方法

・授業課題レポートで評価
（期末試験は行わない）

	授業計画	チェック欄
第1回	医療の歴史と医療制度の歴史	
第2回	病院の各部門の役割	
第3回	わが国の医療制度（一次医療、二次医療、三次医療、救急医療）	
第4回	わが国の医療制度（重点対策がとられている医療、特殊な医療、災害医療）	
第5回	主な生活習慣病（公衆衛生学　第6章）	
第6回	長崎県の医療計画（救急医療、がん、急性心筋梗塞、脳卒中）	
第7回	長崎県の医療計画（へき地医療、糖尿病、小児・周産期医療、精神疾患）	
第8回	医療提供体制（医療施設、医療保険の種類、診療報酬支払制度）	
第9回	衛生行政と社会保障・社会福祉（公衆衛生学　第14章）、関係法規（レポート課題とする）	
第10回	医の倫理と医療従事者の心構え	

区分15	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生化学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

生命を分子レベルで解き明かすことに興味をもち、国家試験出題基準に準拠し、ヒトの代謝を中心に学んでいく。

◆授業の概要・授業方針

教科書・パワーポイントを使用し、理解度を深めていく。練習問題による知識の定着を図る。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/生化学、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験・レポートによる評価

授業計画		チェック欄
第1回	細胞制御、細胞周期Ⅰ～Ⅲ	
第2回	細胞制御、細胞周期Ⅳ～Ⅵ	
第3回	遺伝子①　Ⅰ～Ⅲ	
第4回	遺伝子②　Ⅳ～Ⅴ	
第5回	器官/生理機能の生化学　A	
第6回	器官/生理機能の生化学　B	
第7回	器官/生理機能の生化学　C	
第8回	器官/生理機能の生化学　D	
第9回	器官/生理機能の生化学　E	
第10回	器官/生理機能の生化学　F	
第11回	器官/生理機能の生化学　G	
第12回	病気の生化学　Ⅰ	
第13回	病気の生化学　Ⅱ	
第14回	栄養学　Ⅰ	
第15回	まとめ（後期）	

区分16	専門基礎分野 医学検査の基礎とその疾病との関連	授業科目名	病理学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	藤田　修一	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

長崎大学熱帯医学研究所で病理解剖の実務経験がある。現在、長崎大学病院で、病理組織診断・細胞診業務に携わっている。

◆授業の目的・目標

病理学は「病気」の解明に科学的に取り組む学問である。この科目は病理学総論の授業を行う。疾病の原因・発生機構・病態・予後を包括的に理解することを目的とする。

◆授業の概要・授業方針

病理学総論として、臓器ごとの疾患ではなく、共通する基本的な病態ごとに、その病理学的変化を学ぶ。これらの基本的変化は2年次の「病理検査学」の病理学各論にもつながるので、しっかり学習すること。授業では、各種病変の肉眼像・顕微鏡像（組織像）も提示しながら進める。

◆テキスト・参考資料等

教科書：　中村仁志夫、佐藤達資、石津明洋、田中伸哉　医療系学生のための病理学 第5版　講談社
参考書：　松原修 他 臨床検査学講座「病理学／病理検査学」 医歯薬出版

◆成績評価の方法

定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	病理学の概要、病因論	
第2回	先天性疾患と遺伝病	
第3回	細胞・組織傷害 (1)	
第4回	細胞・組織傷害 (2)	
第5回	物質代謝障害	
第6回	修復と再生	
第7回	循環障害 (1)	
第8回	循環障害 (2)	
第9回	循環障害 (3)	
第10回	炎症 (1)	
第11回	炎症 (2)	
第12回	免疫と免疫異常 (1)	
第13回	免疫と免疫異常 (2)	
第14回	腫瘍 (1)	
第15回	腫瘍 (2)	

区分18	専門基礎分野 医学検査の基礎とその疾病との関連	授業科目名	血液学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	児嶋　梓	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容
一般内科学・血液内科学の実務経験あり

◆授業の目的・目標
血液疾患の病態を理解するための基礎知識の習得

◆授業の概要・授業方針
血液検査の概要と日常診療におけるその重要性を 理解する

◆テキスト・参考資料等
臨床検査学講座「血液検査学」

◆成績評価の方法
期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	血液学の概要	
第2回	赤血球(1)	
第3回	赤血球(2)	
第4回	白血球(1)	
第5回	白血球(2)	
第6回	まとめと演習(1)	
第7回	血小板・止血・凝固・線溶(1)	
第8回	血小板・止血・凝固・線溶(2)	
第9回	血小板・止血・凝固・線溶(3)	
第10回	血小板・止血・凝固・線溶(4)	
第11回	まとめと演習(2)	
第12回	血液疾患に関する検査(1)	
第13回	血液疾患に関する検査(2)	
第14回	血液疾患に関する検査(3)	
第15回	後期試験前のまとめと演習	

区分19	専門基礎分野 医学検査の基礎とその疾病との関連	授業科目名	免疫学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	古田　智春	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

自然免疫と獲得免疫を理解し、免疫の全体像を理解する。

免疫を応用した治療法を学ぶ。

免疫機能異常で起こる疾患を学ぶ。

◆授業の概要・授業方針

複雑な免疫機序を理解するために、免疫の全体像から説明する。

学生に質問を投げかけて、自ら考える時間を設ける。

国家試験問題に準拠した小テストを行う。

◆テキスト・参考資料等

講義資料

最新臨床検査学講座　免疫検査学/輸血・移植検査学：医歯薬出版株式会社

◆成績評価の方法

小テストの成績

期末試験の成績

授業計画		チェック欄
第1回	免疫系の構成要素	
第2回	自然免疫	
第3回	補体系の役割	
第4回	獲得免疫	
第5回	免疫の全体像	
第6回	抗体の構造と種類	
第7回	抗体の機能	
第8回	抗原抗体反応の性質	
第9回	免疫寛容	
第10回	腫瘍免疫	
第11回	移植	
第12回	アレルギー疾患	
第13回	組織特異的自己免疫疾患	
第14回	全身性自己免疫疾患（膠原病）	
第15回	免疫不全症	

区分22	専門基礎分野 保健医療福祉と臨床検査	授業科目名	医療福祉概論	単位数	1単位（20時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	酒井　麻子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

①介護保険施設：生活相談員（入退所に伴う支援）
②障害者支援施設（入所施設）：生活支援員（入所者の生活援助）
③病院（地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院等の指定病院）：医療ソーシャルワーカー（退院援助、受診・受療援助、心理的・社会的問題の解決、調整援助、地域活動等）

◆授業の目的・目標

どのような状況下であろうと、自分の人生を自分で決め、誇りをもって生きることは、誰もが望むことである。必要な福祉制度の知識を習得し、医療サービスの提供者として、又、地域住民として果たすべき役割を考える。

◆授業の概要・授業方針

社会福祉の歴史・思想を含む概要、分野別の社会福祉の制度・サービス等を理解する。そして、医療サービスの提供者として、自身の専門分野のみでなく、医療福祉に関する視点を習得する。

◆テキスト・参考資料等

各回講義資料印刷及び医療福祉総合ガイドブック2023年度版

◆成績評価の方法

学期末試験（筆記試験）

	授業計画	担当教員	チェック欄
第1回	「社会福祉とは何か」 ：権利としての社会保障、拡大・深刻化する生活問題、地域包括ケアシステムと地域共生社会	酒井　麻子	
第2回	「児童福祉」 ：児童福祉法　児童育成の理念　児童育成の責任　相談機関　施設等	酒井　麻子	
第3回	「高齢者福祉①」 ：高齢化率　高齢化社会と高齢社会　日本の現況と今後の課題等	酒井　麻子	
第4回	「高齢者福祉②」 ：介護保険制度、代表的なサービス等	酒井　麻子	
第5回	「認知症サポーター養成講座」 ：認知症について正しく理解し、認知症の方やそのご家族を見守り支援する応援者「認知症サポーター」となるための講座（講座終了後、認知症サポーターカードを取得）	地域包括 支援センター	
第6回	「障がい者福祉①」 ：障がいのとらえ方とその変遷、障がいとともに生きるということ等	酒井　麻子	
第7回	「障がい者福祉②」 ：障がいのある人への支援、サービス、相談機関等	酒井　麻子	
第8回	「社会保障制度」 ：社会保障とは　憲法第25条「生存権」 社会保険　公的年金：国民年金(基礎年金）等 公的扶助とは　生活保護法	酒井　麻子	
第9回	「医療機関における福祉の専門職」 ：医療機関の構成、医療ソーシャルワーカーとは、医療ソーシャルワーカーの役割・専門性	病院勤務の医療 ソーシャルワーカー	
第10回	「援助者として必要なこと」 ：バイステックのケースワークの原則、無知の姿勢等	酒井　麻子	

区分26	専門基礎分野 医用工学及び医療情報	授業科目名	情報科学実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	船津　由季子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容
民間企業においてプログラマーおよびインストラクターとして勤務
社内で使用していたシステムの操作方法をレクチャーする
また職業訓練校において、情報処理の授業、検定・国試対策などを受け持つ

◆授業の目的・目標
・情報活用試験3級合格
・情報処理の基礎能力をつける
・国家試験対策を兼ねる

◆授業の概要・授業方針
・テキストを使用し、一般的な情報処理の解説を行う
・プリントなどを使用し、ポイント説明を行う
・過去問題を使用し、時間計測・解説を行う

◆テキスト・参考資料等
改訂3版 J検情報活用3級完全対策公式テキスト
（日本能率協会マネジメントセンター）
プリント、過去問題など

◆成績評価の方法
定期試験評価
課題提出

授業計画		チェック欄
第1回	第6章　情報社会とコンピュータ	
第2回	第6章　情報社会とコンピュータ	
第3回	第7章　情報モラル	
第4回	第7章　情報モラル	
第5回	令和3年度前期J検3級問題　計測・解説	
第6回	令和3年度前期J検3級問題　解説	
第7回	令和3年度後期J検3級問題　計測・解説	
第8回	令和3年度後期J検3級問題　解説	
第9回	令和4年度前期J検3級問題　計測・解説	
第10回	令和4年度前期J検3級問題　解説	
第11回	令和4年度後期J検3級問題　計測・解説	
第12回	令和4年度後期J検3級問題　解説	
第13回	令和5年度前期J検3級問題　計測・解説	
第14回	令和6年度前期J検3級問題　計測・解説	
第15回	令和5年度後期J検3級問題　2回目計測・解説	

区分27	専門分野 病態学	授業科目名	臨床医学総論	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。　　また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

①疾患の成因・病態像・特徴的症状について学び、疾患に関する総合的知識を深める。
②各疾患における臨床検査の意義を理解する。

◆授業の概要・授業方針

テキストに沿って、各章ごとに捕捉説明を加えながら講義を進める。
授業ごとに振り返りを行うことで理解を深める

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病態学/臨床検査医学総論

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	医学総論	
第2回	循環器疾患①	
第3回	循環器疾患②	
第4回	呼吸器疾患①	
第5回	呼吸器疾患②	
第6回	消化器疾患①	
第7回	消化器疾患②	
第8回	肝・胆・膵疾患①	
第9回	肝・胆・膵疾患②	
第10回	感染症①	
第11回	感染症②	
第12回	感染症③	
第13回	血液・造血器疾患①	
第14回	血液・造血器疾患②	
第15回	まとめ	

区分38	専門分野 尿・糞便等一般検査	授業科目名	医動物学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

基本的な手技と検体の取り扱い方・顕微鏡操作に慣れる。国家試験に出題されやすい寄生虫について把握する。

◆授業の概要・授業方針

基本的な寄生虫検出法について学ぶ。未熟な顕微鏡操作についても繰り返し行うことで、2年次の実習へのスムーズな移行を促したい。国家試験を見据え、教科書の重要箇所へ線を引く。3年次に再度、重要箇所が視覚的に捉えられるようにする。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「医動物学」

◆成績評価の方法

期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	医動物学実習の進め方	
第2回	鏡検（各種花粉の観察）	
第3回	虫卵検出法（カバーガラス直接薄層塗抹法）鏡検（標本観察・スケッチ）	
第4回	回虫、日本海裂頭条虫	
第5回	（セロファン厚層塗抹法）鏡検（標本観察・スケッチ）	
第6回	糞線虫、ウエステルマン肺吸虫、無鉤条虫、有鉤条虫	
第7回	虫卵検出法（飽和食塩浮遊法）鏡検（標本観察・スケッチ）	
第8回	ズビニ鉤虫、アメリカ鉤虫、東洋毛様線虫	
第9回	虫卵検出法（硫酸Mg食塩水浮遊法MGL法　ホルマリン・エーテル遠心沈殿法）・鏡検（標本観察・スケッチ）	
第10回	鞭虫、日本住血吸虫	
第11回	虫卵検出法（AMSⅢ法）鏡検（標本観察・スケッチ）	
第12回	肝吸虫、横川吸虫	
第13回	鏡検（各種標本観察・スケッチ）	
第14回	蟯虫、肝蛭、巨大肝蛭、小型条虫、エキノコックス	
第15回	鯖などの青魚よりアニサキスの採取・鏡検（標本観察）	
第16回	アニサキス	

区分36	専門分野 尿・糞便等一般検査	授業科目名	一般検査学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

基本的な実習技術の習得と検体の取り扱い方

◆授業の概要・授業方針

基本的な手技について学ぶ。技術を身に付けることを第1目標とし、楽しみながら取組むように促す。受身にならないようディスカッションも取り入れ、興味を持てる授業展開としたい。実習班にて考察を行い、グループ学習の効果を体感する。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「一般検査学」

◆成績評価の方法

期末試験

授業計画		チェック欄
第1回 第2回	髄液検査（白血球分離）［髄液細胞数算定実習用］	
第3回 第4回	髄液細胞数算定、髄液［グロブリン反応（ノンネ、パンディ）、タンパク定量（マイクロTPテスト）］	
第5回 第6回	髄液細胞数算定、髄液［トリプトファン、糖定量］	
第7回 第8回	便潜血反応［人工便による酸化法、免疫法］	
第9回 第10回	胃液酸度測定、中和滴定の仕方＊試験範囲外	
第11回 第12回	尿沈渣（基本的な操作について）	
第13回 第14回	尿沈渣（自己尿）	
第15回 第16回	尿沈渣（異常検体）	

区分46	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学	単位数	1単位 （16時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義を行う。

◆授業の目的・目標
グラム陽性球菌・グラム陰性球菌について性状・病原性など基本的なことを学習し、菌種の違いによる感染症と危険性などを理解する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に小試験を交えて進める。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点

授業計画		チェック欄
第1回	スタフィロコッカス属	
第2回		
第3回	ストレプトコッカス属	
第4回		
第5回	エンテロコッカス属	
第6回	ナイセイリア科とモラクセラ科	
第7回		
第8回	球菌属まとめ	

区分47	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義・実習を行う。

◆授業の目的・目標
染色・鏡検・同定法について基本的な手技を修得する。また、グラム陽性球菌・グラム陰性球菌について菌種の特徴を学習する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に小試験を交えて進める。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点・実習態度

授業計画		チェック欄
第1回	基本操作 培地作製 グラム染色/顕微鏡での観察について	
第2回		
第3回		
第4回	グラム染色/鏡検実習	
第5回		
第6回		
第7回	ブドウ球菌 実習	
第8回		
第9回		
第10回	連鎖球菌/腸球菌 実習	
第11回		
第12回		
第13回	モラクセラ実習	
第14回		
第15回		
第16回	球菌属のまとめ	

区分48	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学①	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	1年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・標準12誘導心電図の臨床的意義を理解する。
・心電図波形の計測ができる。
・心電計の構成を理解し、アーチファクトに対応できる。
・異常心電図を判読し、対応できる。
・運動負荷心電図、ホルター心電図、加算平均心電図の適応と方法を理解する。

◆授業の概要・授業方針

・テキスト（教科書）に沿った授業とする。
・心電図判読レポート提出
・国家試験出題問題（過去問）

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（9割）
・レポート点（1割）

授業計画		チェック欄
第1回	生理機能検査とは（業務の範囲と安全管理）	
第2回	循環器系検査の基礎（心臓、心周期、血管）	
第3回	刺激伝導系と心電図波形の成り立ち、心電図波形の計測	
第4回	標準12誘導心電図の誘導法と読み方、電気軸	
第5回	心電計の構成、アーチファクト対策	
第6回	異常心電図（不整脈）判読と対応	
第7回	異常心電図（虚血性心疾患）判読と対応	
第8回	異常心電図ケーススタディー、要レポート提出	
第9回	運動負荷心電図（適応と禁忌、方法、中止徴候）	
第10回	ホルター心電図、加算平均心電図、その他	

区分4	基礎分野 科学的思考の基礎	授業科目名	法学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、日臨技副会長として法改正等にかかわった。また、本校職員として10数年、法学を教授してきた。

◆授業の目的・目標

憲法・各種法律について、歴史と成り立ち更に各種医療従事者に関する法規、臨床検査に関わる法律などについて学び社会人・医療人としての遵守等について講義する。

◆授業の概要・授業方針

教科書を中心にスライドによるプレゼンテーションと補足プリントを使用した講義が中心となる。

◆テキスト・参考資料等

教科書（医歯薬出版社）関係法規

◆成績評価の方法

出席状況やレポート提出、小テストなど。最終的には期末試験により評価する。

授業計画		チェック欄
第1回	序：法の概念（憲法・法律）	
第2回	医事関連法規、保健施設関係法規として医療法を中心に	
第3回	保健医療関係者法規（医師法他）	
第4回	その他の保健医療関係者法規	
第5回	予防・保健関係法規	
第6回	食品・薬事環境衛生関係法規	
第7回	死体解関係剖法規・健康増進・福祉関係法規	
第8回	労働関係・医療保険関係法規	
第9回	臨床検査技師法	
第10回	予備	

区分12	基礎分野 人間と生活・社会の理解	授業科目名	保健体育実習	単位数	0.5単位 （16時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・これからの学校生活を計画的に考える。
・良き友人関係を形成する。
・モラルを守り、協調性を養う。
・たくさん楽しむ。

◆授業の概要・授業方針

・1泊2日の宿泊研修を通して食事、運動、レクレーションおよび睡眠など様々な団体行動を行う。
・グループ毎の役割分担を決め、協力しやり遂げる。
・アンケートへの回答。

◆テキスト・参考資料等

・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・時間厳守ができているか
・団体行動ができているか
・率先垂範ができているか
・チーム活動ができているか
以上を総合的に評価する。

	授業計画	担当教員	チェック欄
第1回	日吉自然の家での宿泊研修（1日目） ・オリエンテーション ・アイスブレイク ・山道散策（未定） ・レクレーション（未定） ・夕べのつどい	坂口・古田・萬谷	
第2回		坂口・古田・萬谷	
第3回		坂口・古田・萬谷	
第4回		坂口・古田・萬谷	
第5回	日吉自然の家での宿泊研修（2日目） ・朝のつどい・ラジオ体操 ・清掃活動 ・野外炊飯 ・後片付け	坂口・古田・萬谷	
第6回		坂口・古田・萬谷	
第7回		坂口・古田・萬谷	
第8回		坂口・古田・萬谷	

区分28	専門分野 病態学	授業科目名	臨床病理学総論	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

①疾患の成因、病態像、特徴的症状について学び、疾患に関する総合的知識を深める。
②各疾患の診断・治療・予後判定に必要な臨床検査の知識を習得し、臨床検査の意義と重要性を理解する。

◆授業の概要・授業方針

テキストに沿って、各章ごとに捕捉説明を加えながら講義を進める。
授業ごとに振り返りを行うことで理解を深める。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病態学/臨床検査医学総論

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	第6章 感染症 A領域別の感染症①	
第2回	第6章 感染症 A領域別の感染症②	
第3回	第6章 感染症 A領域別の感染症③	
第4回	第7章 血液・造血器疾患①	
第5回	第7章 血液・造血器疾患②	
第6回	第7章 血液・造血器疾患③	
第7回	第8章 内分泌疾患①	
第8回	第8章 内分泌疾患②	
第9回	第8章 内分泌疾患③	
第10回	第9章 腎・尿路・男性生殖器疾患①	
第11回	第9章 腎・尿路・男性生殖器疾患②	
第12回	第10章 女性生殖器疾患	
第13回	復習①	
第14回	復習②	
第15回	前期のまとめ	

区分31	専門分野 血液学的検査	授業科目名	血液検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	児嶋　梓	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
一般内科学・血液内科学での実務経験あり

◆授業の目的・目標
血液疾患の病態を理解するための基礎知識の習得

◆授業の概要・授業方針
血液検査の病態と臨床的特徴を学び、日常診療における血液検査の重要性を理解する。

◆テキスト・参考資料等
臨床検査学講座「血液検査学」

◆成績評価の方法
期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	赤血球系疾患 総論と各論(1) 小球性貧血	
第2回	赤血球系疾患 各論(2) 正球性貧血	
第3回	赤血球系疾患 各論(3) 大急性貧血、赤血球系疾患のまとめ	
第4回	白血球系疾患　総論	
第5回	白血球系疾患　各論(1) 骨髄性白血病	
第6回	白血球系疾患　各論(2) 骨髄異形成症候群、骨髄増殖性疾患	
第7回	白血球系疾患　各論(3) リンパ性白血病、悪性リンパ腫	
第8回	白血球系疾患　各論(4) 多発性骨髄腫、白血球疾患のまとめ	
第9回	血小板、凝固系の疾患(1)	
第10回	血小板、凝固系の疾患(2)	
第11回	血小板、凝固系の疾患(3)	
第12回	血小板、凝固系の疾患(4)	
第13回	血小板、凝固系の疾患(まとめ)	
第14回	染色体検査と遺伝子検査	
第15回	前期試験前のまとめと演習	

区分32	専門分野 血液学的検査	授業科目名	血液検査学実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、血液検査を専門として臨床実務を経験。その間、日臨技血液検査研究会の全国委員、平成8年からは班長を務めた。平成4年からは本校の非常勤講師として血液学を担当して以来32年目となる。

◆授業の目的・目標

血球の分化、生成、機能、質的、量的など血液学の基礎を活用し、更に詳細な知識を取り込みながら、CBCの各種実習を行う。

◆授業の概要・授業方針

各項目について、基礎的な用手法による検査で、試薬の特性や原理等を中心に実習する。

◆テキスト・参考資料等

教科書（医歯薬出版社）血液検査学を中心に、試薬の添付書なども取り入れ、実習を行う。

◆成績評価の方法

出欠状況、授業に対する真摯さなどを観ながら、質問等に対する回答能力なども評価するが、最終的には試験での評価とする。

授業計画		チェック欄
第1回	血液学の歴史、レポートの書き方。	
第2回	採血、採血の副作用、CBCの試薬作成など	
第3回	CBCについて（赤血球・白血球）	
第4回	実習（赤血球・白血球）	
第5回	CBCについて（ヘマトクリット・ヘモグロビン）	
第6回	実習（ヘモグロビン検量線作成・ヘマトクリット）	
第7回	CBCについて（血小板）	
第8回	実習（血小板＝直接法・間接法）	
第9回	CBCについて（網状赤血球）、自動機器によるCBC	
第10回	実習（網状赤血球）	
第11回	溶血検査について（赤血球抵抗試験・砂糖水試験・Ham試験	
第12回	実習（赤血球浸透圧抵抗試験）	
第13回	赤血球沈降速度について	
第14回	実習（赤血球沈降速度・ウェスタグレン法）	
第15回	薄層塗抹標本作成と濃塗抹標本作成。普通染色（パッペンハイム染色、固定・染色液の特性）	
第16回	実習（薄層塗抹標本作成・普通染色）	
第17回	末梢血薄層塗抹標本の鏡検・観察	
第18回	実習（薄層塗抹染色標本鏡検）	
第19回	細胞化学（ペルオキシダーゼ染色・ズダンブラックB染色）	
第20回	実習（染色・鏡検）	
第21回	細胞化学（アルカリホスファターゼ染色）	
第22回	実習（染色・鏡検）	
第23回	細胞化学（特異的エステラーゼ・非特異的エステラーゼ染色）＋弗化ソーダ阻害試験	
第24回	実習（染色・鏡検）	
第25回	細胞化学（PAS染色）	
第26回	実習（染色・鏡検）	
第27回	細胞化学（PAS染色）	
第28回	実習（染色・鏡検）	
第29回	白血病分類（FAB分類）と細胞化学	
第30回	白血病分類（FAB分類）と細胞性免疫	

区分33	専門分野 病理学的検査	授業科目名	病理検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	藤田　修一	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

長崎大学熱帯医学研究所で病理解剖の実務経験がある。現在、長崎大学病院で、病理組織診断・細胞診業務に携わっている。

◆授業の目的・目標

1年生で学んだ病理学の知識をもとに、臓器別の疾患について学ぶ。将来、臨床の現場で遭遇する疾患であるので、確実に理解する。また、臨床検査技師の業務でもある病理組織標本の作製、病理解剖、細胞診についても概説する。

◆授業の概要・授業方針

第1回から第12回を病理学各論にあて、病理学（総論）の知識に基づいて、臓器別に頻度の高い疾患について講義する。第13回・14回は病理検査における組織標本の作製法と病理解剖、第15回は細胞診について概説する。

◆テキスト・参考資料等

教科書：　中村仁志夫、佐藤達資、石津明洋、田中伸哉　医療系学生のための病理学 第5版　講談社
参考書：　松原修 他 臨床検査学講座「病理学／病理検査学」 医歯薬出版

◆成績評価の方法

定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	循環器系 (1)	
第2回	循環器系 (2)	
第3回	呼吸器系	
第4回	消化器系 (1)	
第5回	消化器系 (2)	
第6回	造血器系	
第7回	泌尿器系	
第8回	生殖器系・乳腺	
第9回	運動器及び軟組織系、内分泌系 (1)	
第10回	内分泌系 (2)	
第11回	脳・神経系 (1)	
第12回	脳・神経系 (2)、皮膚・感覚器系	
第13回	病理組織学的検査法 (1)	
第14回	病理組織学的検査法 (2)	
第15回	細胞学的検査法	

区分34	専門分野 病理学的検査	授業科目名	病理検査学実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

①病理組織学的検査の基礎的事項や最新知見を取り入れ内容や実際を理解する。
②組織染色に必要な正常組織象を理解する。
③病理組織学的検査での組織染色の重要性を理解する。
④臨床検査技師として病理組織学的検査に必要な基礎的秘術を養う。
⑤その他の免疫組織学的染色、術中迅速病理診断、電子顕微鏡、病理解剖、病理検査室の管理等においての知識習得をする。

◆授業の概要・授業方針

①『病理検査学実習』に必要な基礎的組織象を理解する。
②テキスト資料等を基に講義実習を行う。
③実習は班単位で行い、お互いに援助できる体制をとる。
④3年次の臨地実習・国家試験を十分意識した内容で行う。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病理学/病理検査学
染色法のすべて（医歯薬出版株式会社）

◆成績評価の方法

出席状況・レポート課題状況・定期試験

	授業計画	チェック欄
第1回	病理組織学的検査の意義と概要	
第2回	病理標本作成手順（・固定法　・切り出し　・脱脂法　・脱灰法　・包埋法　・薄切法　・凍結切片）	
第3回	病理標本作成手順（・固定法　・切り出し　・脱脂法　・脱灰法　・包埋法　・薄切法　・凍結切片）	
第4回	病理標本作成手順（・固定法　・切り出し　・脱脂法　・脱灰法　・包埋法　・薄切法　・凍結切片）	
第5回	・染色法　（・目的　・染色前と染色後の操作）　・染色装置　・染色法の選択	
第6回	・染色法　（・目的　・染色前と染色後の操作）　・染色装置　・染色法の選択	
第7回	一般染色（基本染色）　hematoxylin-eosin 染色　（パラフィン切片）	
第8回	一般染色（基本染色　パラフィン切片）術注迅速診断標本　hematoxylin-eosin 染色　（凍結切片）	
第9回	特殊染色　・結合組織染色　（　・膠原線維　・弾性線維　・細網線維　）	
第10回	特殊染色　・結合組織染色　（　・膠原線維　・弾性線維　・細網線維　）	
第11回	特殊染色　・多糖類染色　　（　・PAS（過ヨウ素酸シッフ反応）　）　・Alcian blue 染色	
第12回	特殊染色　・多糖類染色　　（　・PAS（過ヨウ素酸シッフ反応）　）・グリコーゲン消化試験	
第13回	特殊染色　・多糖類染色　　（　・mucicarmine 染色　・toluidine blue 染色　）	
第14回	特殊染色　・多糖類染色　　（　・mucicarmine 染色　・toluidine blue 染色　）	
第15回	腎糸球体基底膜の染色法　（　・ Masson trychrome 染色）	
第16回	腎糸球体基底膜の染色法　（　・ Masson trychrome 染色）	
第17回	腎糸球体基底膜の染色法　（　・ azan-Mallory 染色）	
第18回	腎糸球体基底膜の染色法　（　・ azan-Mallory 染色）	
第19回	アミロイド染色法　（・Congo red 染色）	
第20回	アミロイド染色法　（・Congo red 染色）	
第21回	脂質の染色法　・核酸の染色法	
第22回	線維素の染色法　（・PTAH 染色法 りんタングステン酸ヘマトキシリン染色）　・組織中無機物質	
第23回	・組織中無機物質（・鉄検出法　・カルシウム染色）　・生体内色素染色法　・内分泌細胞染色	
第24回	（・組織内病原体　・神経組織　・酵素組織化学　・免疫組織化学　・遺伝子）染色	
第25回	（・組織内病原体　・神経組織　・酵素組織化学　・免疫組織化学　・遺伝子）染色	
第26回	（・組織内病原体　・神経組織　・酵素組織化学　・免疫組織化学　・遺伝子）染色	
第27回	（・組織内病原体　・神経組織　・酵素組織化学　・免疫組織化学　・遺伝子）染色	
第28回	・電子顕微鏡標本作製法　・ 病理解剖　・ 検査業務の管理	
第29回	・電子顕微鏡標本作製法　・ 病理解剖　・ 検査業務の管理	
第30回	まとめ	

区分39	専門分野 生化学的検査・免疫学的検査	授業科目名	化学分析検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

体内物質の代謝と機能及び臨床的意義を理解しその測定法・測定原理を学ぶ。疾患と検査項目、検査値の臨床的意義を理解する。

◆授業の概要・授業方針

教科書・パワーポイントを使用し、理解度を深めていく。練習問題による知識の定着を図る。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/臨床化学検査学（第2版）、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験・レポートによる評価

授業計画		チェック欄
第1回	脂質とリポ蛋白①	
第2回	脂質とリポ蛋白②	
第3回	脂質とリポ蛋白③	
第4回	蛋白質①	
第5回	蛋白質②	
第6回	蛋白質③	
第7回	非蛋白性窒素化合物①	
第8回	非蛋白性窒素化合物②	
第9回	酵素①	
第10回	酵素②	
第11回	無機質①	
第12回	無機質②	
第13回	ホルモン①	
第14回	ホルモン②	
第15回	まとめ	

区分40	専門分野 生化学的検査・免疫学的検査	授業科目名	化学分析検査学 実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

講義内容に関し、自主的に興味をもち学んでいく。また、グループワークを通して、コミュニケーションの大切さを学んでいく。

◆授業の概要・授業方針

座学による講義をもとに基本的な技術、知識の確認とグループワークによる研究・発表までを一連の流れとして学ぶ。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/臨床化学検査学（第2版）、臨床検査学実習書シリーズ/臨床化学検査学　実習書、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本

◆成績評価の方法

定期試験、グループワーク評価、レポート評価の総合評価とする。

授業計画		チェック欄
第1回	基本的な器具の取り扱い	
第2回	採血の基礎知識	
第3回	採血実習	
第4回	糖質測定①　講義	
第5回	糖質測定　グループワーク②	
第6回	糖質測定　グループワーク③	
第7回	糖質測定　グループワーク④	
第8回	糖質測定　グループワーク⑤	
第9回	蛋白質測定①　講義	
第10回	蛋白質測定　グループワーク②	
第11回	蛋白質測定　グループワーク③	
第12回	蛋白質測定　グループワーク④	
第13回	蛋白質測定　グループワーク⑤	
第14回	脂質測定①　講義	
第15回	脂質測定　　グループワーク②	
第16回	脂質測定　　グループワーク③	
第17回	脂質測定　　グループワーク④	
第18回	脂質測定　　グループワーク⑤	
第19回	カルシウム測定①　講義	
第20回	カルシウム測定　グループワーク②	
第21回	カルシウム測定　グループワーク③	
第22回	カルシウム測定　グループワーク④	
第23回	カルシウム測定　グループワーク⑤	
第24回	酵素Ｉ（LD)測定①　講義	
第25回	酵素Ｉ（LD)測定　グループワーク②	
第26回	酵素Ｉ（LD)測定　グループワーク③	
第27回	酵素Ｉ（LD)測定　グループワーク④	
第28回	酵素Ｉ（LD)測定　グループワーク⑤	
第29回	前期まとめ①	
第30回	前期まとめ②	

区分41	専門分野 生化学的検査・免疫学的検査	授業科目名	免疫検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	古田　智春	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

抗原と抗体の概念を理解する。

輸血副反応の機序を理解する。

免疫学的検査の測定原理を理解する。

◆授業の概要・授業方針

輸血検査学の知識が実習に生かされるような授業を行う。

学生に質問を投げかけて、自ら考える時間を設ける。

国家試験問題に準拠した小テストを行う。

◆テキスト・参考資料等

講義資料

最新臨床検査学講座　免疫検査学/輸血・移植検査学：医歯薬出版株式会社

◆成績評価の方法

小テストの成績

期末試験の成績

授業計画		チェック欄
第1回	ABO血液型	
第2回	Rh血液型、その他の血液型	
第3回	不規則抗体	
第4回	直接抗グロブリン試験の臨床的意義	
第5回	交差適合試験	
第6回	輸血の適応と製剤の選択	
第7回	輸血副反応	
第8回	HLA検査、血小板抗原検査	
第9回	凝集反応、沈降反応、溶解反応	
第10回	非標識免疫測定法、標識免疫測定法	
第11回	電気泳動法	
第12回	梅毒血清反応、肝炎ウイルス抗体検査	
第13回	アレルギーの検査、フローサイトメトリー、マイトジェン刺激試験	
第14回	免疫不全症関連検査、腫瘍マーカー検査	
第15回	血清蛋白異常検査	

区分45	専門分野 輸血・移植検査	授業科目名	輸血・移植検査学 実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	古田　智春	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

輸血検査に必要な基本操作を習得する。

輸血の安全を確保するための知識を習得する。

国家試験問題に準拠した知識を習得する。

◆授業の概要・授業方針

検査の意義や目的を説明してから実習を行う。

実習の結果について各班毎の考えをまとめる時間を設ける。

実習の要点を再確認できるよう、解説を丁寧に行う。

小テストを用いて理解度を確認する。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座　免疫検査学/輸血・移植検査学：医歯薬出版株式会社

試料

小テスト

輸血のための検査マニュアル：日本輸血・細胞治療学会

◆成績評価の方法

期末試験

小テスト

授業計画		チェック欄
第1回	ABO血液型、抗Hレクチンによる被凝集価測定	
第2回		
第3回		
第4回	Rh血液型、D陰性確認試験	
第5回		
第6回		
第7回	不規則抗体スクリーニング	
第8回		
第9回		
第10回	直接抗グロブリン試験、グリシン塩酸EDTA解離	
第11回		
第12回		
第13回	不規則抗体同定検査	
第14回		
第15回		
第16回	カラム凝集反応（ABO血液型、不規則抗体スクリーニング）	
第17回		
第18回		
第19回	亜型（1）	
第20回		
第21回		
第22回	亜型（2）	
第23回		
第24回		
第25回	唾液中の型物質	
第26回		
第27回		
第28回	交差適合試験	
第29回		
第30回		

区分47	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義・実習を行う。

◆授業の目的・目標
実習を通し腸内細菌・非発酵菌の検査手技を確り身に着け同定法・薬剤感受性・薬剤耐性菌について、理解・修得する。菌種の特徴を学習し、その菌種の感染症と危険性などを理解する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に各細菌の同定・薬剤感受性試験の実習を行う。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点・実習態度

授業計画		チェック欄
第1回	グラム陽性球菌（復習）・腸内細菌科について	
第2回	腸内細菌科講義・実習	
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	ビブリオ科講義・実習	
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回	パスツレラ科講義・実習	
第15回		
第16回		
第17回		
第18回	シュードモナス科講義・実習	
第19回		
第20回		
第21回		
第22回	通性嫌気性グラム陰性桿菌講義 グラム陰性好気性桿菌講義 グラム陰性 微好気性らせん菌 グラム陽性好気性桿菌	
第23回		
第24回		
第25回		
第26回	薬剤感受性検査	
第27回		
第28回		
第29回		
第30回	前期総括	

区分48	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学①	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・心周期を理解する。
・心音図検査における心雑音と疾患の関係を理解する。
・心エコー図における弁膜疾患と心雑音の関係を理解する。
・脈管疾患検査の臨床的意義と方法、結果の解釈ができる。
・感覚機能検査の臨床的意義と方法、結果の解釈ができる。

◆授業の概要・授業方針

・テキスト（教科書）に沿った授業とする。
・心音図、脈管疾患検査、感覚機能検査のレポート提出を必須とする。
・国家試験出題問題（過去問）を使って理解を深める。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（8割）
・レポート点（2割）

授業計画		チェック欄
第1回	循環器検査の基礎、心周期と血圧（教科書P9）	
第2回	心周期と心音の成因、心音図記録の実際	
第3回	異常心音図（心雑音）・心エコー図から弁膜疾患・先天性心疾患を診断する。	
第4回	心音図レポート作成と提出	
第5回	脈管疾患検査（ABI、TBI、SPP、PWV、FMD）の臨床的意義、方法、結果の解釈	
第6回	脈管疾患検査レポート作成と提出	
第7回	平衡機能検査の臨床的意義、方法、結果の解釈	
第8回	聴覚機能検査の臨床的意義、方法、結果の解釈	
第9回	眼底カメラの臨床的意義、方法、結果の解釈	
第10回	味覚・嗅覚検査の臨床的意義、方法、結果の解釈	

区分49	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学① 実習	単位数	2単位 （60時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・心電計の準備、設定ができ、アーチファクトに対応できる。
・各種心電図検査について説明することができる。
・標準12誘導心電図を正確に速やかに記録し、判読することができる。
・緊急性が高い異常心電図を速やかに報告することができる。
・運動負荷心電図、ホルター心電図を測定し、測定したデータについて解析することができる。

◆授業の概要・授業方針

・第1回～7回は1年次後期の再履修を行う。第8回からは少人数のグループに分かれ、各日程に従って実習を行う。
・機器の準備、患者説明、操作から電極装着などについて修得する。各セクション終了時にレポート提出を必須とする。
・記録した心電図をリアルタイムに判読することで緊急性の有無を含め、臨床に貢献する力を身につける。
・グループ内で順番に検査技師役と患者さん役に分かれて、両者を体験することにより、患者接遇やマナーについて修得する。
・運動負荷心電図、ホルター心電図も可能な限り実技を行う。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（8割）
・レポート点（1割）
・実技点（1割）

授業計画		チェック欄
第1回	循環器系検査の基礎（心臓、心周期、血管）	
第2回	刺激伝導系と心電図波形の成り立ち、心電図波形の計測	
第3回	標準12誘導心電図の誘導法と読み方、電気軸	
第4回	心電計の構成、アーチファクト対策	
第5回	異常心電図（不整脈）判読と対応	
第6回	異常心電図（虚血性心疾患）判読と対応	
第7回	運動負荷心電図（適応と禁忌、方法、中止徴候）、ホルター心電図、加算平均心電図	
第8回	オリエンテーション（実習概要）、グループ打合せ、心電計の設定、生理検査室の準備	
第9回 第10回	標準12誘導心電図実習（準備、患者説明、電極装着、結果の判読）	
第11回 第12回	レポート作成と提出（第1～10回分）	
第13回 第14回	マスター運動負荷心電図実習（準備、患者説明、結果の解釈）	
第15回 第16回	トレッドミル運動負荷心電図実習（準備、患者説明、中止徴候、結果の解釈）	
第17回 第18回	ホルター心電図実習（電極装着、患者説明、結果の解釈）	
第19回 第20回	レポート作成と提出（第13～18回分）	
第21回 第22回	標準12誘導心電図実技テスト	
第23回 第24回	運動負荷心電図実技テスト	
第25回 第26回	平衡機能検査、聴覚検査、眼底カメラ、味覚・嗅覚検査実習	
第27回 第28回	眼底カメラ実習（準備、患者説明、結果の解釈）	
第29回 第30回	レポート作成と提出（第25～28回分）	

区分52	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学③	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・神経系検査に必要な生理学的基礎を理解する。
・神経・筋機能検査（脳波、筋電図）の適応がわかる。
・検査所見を判読し、主要な疾患との関連性を理解する。

◆授業の概要・授業方針

・神経系検査の基礎については教科書、DVD、動画（YouTube）を用い、国家試験対策を意識した講義とする。
・脳波検査、筋電図検査は、教科書の重要な図表を理解できるように丁寧な授業を心掛ける。
・セクションごとのレポート提出を必須とする。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（8割）
・レポート点（2割）

授業計画		チェック欄
第1回	神経系検査の基礎（末梢神経、中枢神経）	
第2回	神経系検査の基礎（脳幹の機能、神経伝導路）	
第3回	脳の働きと機能の局在	
第4回	脳波検査の基礎（臨床的意義、脳波発現の機序、基礎的要素など）	
第5回	正常脳波、年齢による変化、睡眠脳波	
第6回	異常脳波（てんかん、突発性異常波など）、レポート提出（第1～6回分）	
第7回	筋電図検査に必要な生理学的基礎知識	
第8回	針筋電図検査（神経原性変化、筋原性変化）、関連する主要な疾患	
第9回	神経伝導検査、関連する主要な疾患	
第10回	表面筋電図検査、反復神経刺激検査、経頭蓋磁気刺激検査、レポート提出（第7～10回分）	

区分53	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学③ 実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	松田　一之	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・脳波、筋電図検査の電極を正確に取り付けることができる。
・スムーズな検査が実施できる。
・異常な波形などトラブルシューティングに対応できる。

◆授業の概要・授業方針

・神経系検査の基礎を理解した上で、脳波検査、筋電図検査の実技を行う。
・睡眠脳波やてんかんなど波形判読のケーススタディを行う。
・アーチファクト対策の実技を行う。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（8割）
・実技点（2割）

授業計画		チェック欄
第1回	脳波10-20法、モンタージュ、脳波計	
第2回	脳波賦活法、アーチファクトと対処法	
第3回	脳波電極装着デモンストレーション	
第4回	脳波実習、脳波判読	
第5回	脳波実習、脳波判読	
第6回	誘発電位（ABRなど）	
第7回	脳波実技テスト（検査前の処置～検査終了後の処置）	
第8回	脳波実技テスト	
第9回	針筋電図、表面筋電図検査	
第10回	神経伝導検査、反復神経刺激検査、経頭蓋磁気刺激検査	
第11回	運動神経伝導検査実習、伝導速度計測	
第12回	感覚神経伝導検査実習、伝導速度計測	
第13回	神経伝導検査実技テスト（検査前の処置～検査終了後の処置）	
第14回	神経伝導検査実技テスト	
第15回	予備日	

区分54	専門分野 生理学的検査	授業科目名	画像検査学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　前期	担当教員	高橋　雄大	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
消化器・上下肢血管・心臓・関節・甲状腺超音波検査・MRI検査

◆授業の目的・目標
超音波検査・MRI検査に必要な知識や手技について学ぶ。

◆授業の概要・授業方針
正常な画像の実施できるように検査の原理・基礎・解剖・症例について学習する。

◆テキスト・参考資料等
医歯薬出版/臨床検査学講座　生理機能検査学

◆成績評価の方法
定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	超音波検査の基礎1	
第2回	超音波検査の基礎2	
第3回	腹部超音波検査　基礎・解剖	
第4回	腹部超音波検査　各論	
第5回	腹部超音波検査　症例	
第6回	心臓超音波検査　基礎・解剖	
第7回	心臓超音波検査　各論（計測）	
第8回	心臓超音波検査　症例1	
第9回	心臓超音波検査　症例2　／　表在超音波座学（頸動脈・下肢動静脈・乳腺・甲状腺・その他）	
第10回	MRI検査	

区分2	基礎分野 科学的思考の基礎	授業科目名	心理学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	長浦　由紀	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

臨床心理士（公認心理師）として、医療（総合診療科、内科、精神科）、教育（小・中・高校・大学・専門学校）、福祉、産業、各領域での相談業務及び教育・研究活動をもとに、コミュニケーションや環境適応を踏まえた心理学の講義を行う.

◆授業の目的・目標

（1）人間関係にまつわる心理学の基本的な知識を身につける。
（2）学んだことや調べたことを踏まえ、自身の考えを読み手に分かりやすくレポートとしてまとめられるようになる.
（3）グループワークで体験的に患者心理や自分の認知や行動傾向を学び、今後のコミュニケーションに活かす。

◆授業の概要・授業方針

心理学を通して、個・対人関係・集団の側面から人間関係について概論的に学ぶ。さらに、医療現場で患者や医療スタッフとのコミュニケーションを想定し、レポート課題やグループワークを実施する。グループワークでは、HIV検査相談を取り上げ、受検者心理や支援を学ぶことで、心理学の基本的知識を、体験的理解につなげることを目的とする.

◆テキスト・参考資料等

授業内容に応じて、配布や紹介をする.

◆成績評価の方法

レポート40点、期末試験60点
＊詳細はオリエンテーション時に説明。

授業計画		チェック欄
第1回	11月25日（月）オリエンテーション　心理学と人間関係	
第2回	11月25日（月）カウンセリング（グループワーク準備）	
第3回	12月2日（月）自己理解	
第4回	12月2日（月）個人と集団	
第5回	12月9日（月）コミュニケーションスキル①（グループワーク）	
第6回	12月9日（月）コミュニケーションスキル②（グループワーク）	
第7回	12月23日（月）対人行動	
第8回	12月23日（月）発達障害と認知症を踏まえた他者理解	
第9回	1月20日（月）チーム医療	
第10回	1月20日（月）ストレスとメンタルヘルス	

区分28	専門分野 病態学	授業科目名	臨床病理学総論	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

①疾患の成因、病態像、特徴的症状について学び、疾患に関する総合的知識を深める。
②各疾患の診断・治療・予後判定に必要な臨床検査の知識を習得し、臨床検査の意義と重要性を理解する。

◆授業の概要・授業方針

テキストに沿って、各章ごとに捕捉説明を加えながら講義を進める。
授業ごとに振り返りを行うことで理解を深める。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病態学/臨床検査医学総論

◆成績評価の方法

出席状況・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	第11章 神経・運動器疾患①	
第2回	第11章 神経・運動器疾患②	
第3回	第12章 アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全①	
第4回	第12章 アレルギー性疾患、膠原病、免疫不全②	
第5回	第13章 代謝・栄養障害①	
第6回	第13章 代謝・栄養障害②	
第7回	第13章 代謝・栄養障害③	
第8回	第14章 感覚器疾患　第15章 中毒	
第9回	第16章 染色体・遺伝子異常症 第17章 皮膚疾患 第18章 乳腺疾患	
第10回	第19章 臨床診断学総論①	
第11回	第19章 臨床診断学総論②	
第12回	復習①	
第13回	復習②	
第14回	復習③	
第15回	まとめ	

区分29	専門分野 病態学	授業科目名	病態解析学演習	単位数	2単位 （40時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	古田　智春	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

グループを作りテーマを決め、企画、計画、実習を通して互いに討論し協力して一つの結果へと導いていくことで、実社会でのチーム医療の形態を学んでいく。また、パソコンを使ってのプレゼンテーションは、卒業後の学会発表等にも応用できるものと考える。

◆授業の概要・授業方針

グループを作りテーマを決め、研究を進めていく。最終的な研究成果について、九州医学技術専門学校研究発表会で発表する。

◆テキスト・参考資料等

◆成績評価の方法

出席状況、授業態度、発表点

授業計画		チェック欄
第1回	グループ・自主研究テーマ決め	
第2回	自主研究	
第3回	自主研究	
第4回	自主研究	
第5回	自主研究	
第6回	自主研究	
第7回	自主研究	
第8回	自主研究	
第9回	自主研究	
第10回	自主研究	
第11回	自主研究	
第12回	自主研究	
第13回	自主研究	
第14回	自主研究	
第15回	自主研究	
第16回	自主研究	
第17回	自主研究	
第18回	自主研究	
第19回	自主研究	
第20回	自主研究	
	※　講師は内勤講師が内容に応じ担当する。	

区分32	専門分野 血液学的検査	授業科目名	血液検査学実習	単位数	1単位 （40時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、血液検査を専門として臨床実務を経験。その間、日臨技血液検査研究会の全国委員、平成8年からは班長を務めた。平成4年からは本校の非常勤講師として血液学を担当して以来32年目となる。

◆授業の目的

止血、凝固、線溶について臨床検査技師として必要な臨床的意義と各種検査法を理解し、基本的な技術を身に着けることを目標とする。

◆授業の概要・授業方針

各項目について、理論と基礎的技術手法を用いて試薬特性や技術を身につける。

◆テキスト・参考資料等

教科書　血液検査学（医歯薬出版社）を中心に、試薬貼付の資料等を使用する。

◆成績評価の方法

出欠状況、授業に対する真摯さなどを観ながら、質問等に対する回答能力なども評価するが、最終的には試験での評価とする。

授業計画		チェック欄
第1回	総論（止血・凝固・線溶、採血）、止血機序について	
第2回	実習　毛細管抵抗試験（陰圧法・陽圧法）、出血時間	
第3回	内因系・外因系・共通系凝固機序について	
第4回	実習　全血凝固時間、Ca再加時間	
第5回	外因系検査・複合因子測定検査について	
第6回	実習　PT（プロトロンビン時間）、ヘパプラスチンテスト・トロンボテスト	
第7回	内因系凝固検査について	
第8回	実習　APTT（活性化部分トロンボプラスチン時間）	
第9回	共通系凝固機序、フィブリノゲンについて	
第10回	実習　トロンビン法（フィブリノゲン）検量線作成	
第11回	その他のフィブリノゲン測定法（免疫法）等	
第12回	実習　各種サンプルのフィブリノゲン測定	
第13回	クロスミキシング試験について	
第14回	実習　クロスミキシング（交差混合）試験	
第15回	凝固阻止機構について	
第16回	アンチトロンビン・PC・PS・トロンボモジュリン	
第17回	線溶検査について	
第18回	実習　FDP・Dダイマー	
第19回	まとめ　国試対策等について	
第20回	予備	

区分34	専門分野 病理学的検査	授業科目名	病理検査学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）～2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

①病理細胞診業務の目的と実際を理解する。
②細胞診に必要な正常細胞像と悪性細胞像を理解する。
③細胞診業務の検体処理から染色までを理解する。
④スクリーニング業務から診断までを理解する。

◆授業の概要・授業方針

①細胞の写真スライド、実際の染色標本を使って正常から悪性までの基礎的な細胞像を学習する。
②検体処理、染色、細胞の読みを実習する（班単位で情報の共有）。
③3年次の臨地実習・国家試験を十分意識した内容で行う。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病理学/病理検査学
細胞診を学ぶ人のために（医学書院）

◆成績評価の方法

出席状況・レポート課題状況・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	細胞診断学総論	
第2回	婦人科細胞診①	
第3回	婦人科細胞診②	
第4回	婦人科細胞診③	
第5回	検体処理～染色	
第6回	検体処理～染色	
第7回	呼吸器細胞診①	
第8回	呼吸器細胞診②	
第9回	細胞診標本作成①	
第10回	細胞診標本作成②	
第11回	その他の細胞診①	
第12回	その他の細胞診②	
第13回	検体処理～染色①	
第14回	検体処理～染色②	
第15回	細胞診のスクリーニング	
第16回	鏡検実習（総合）	

区分40	専門分野 生化学的検査・免疫学的検査	授業科目名	化学分析検査学 実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

講義内容に関し、自主的に興味をもち学んでいく。また、グループワークを通して、コミュニケーションの大切さを学んでいく。

◆授業の概要・授業方針

座学による講義をもとに基本的な技術、知識の確認とグループワークによる研究・発表までを一連の流れとして学ぶ。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/臨床化学検査学（第2版）、臨床検査学実習書シリーズ/臨床化学検査学　実習書、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本

◆成績評価の方法

定期試験、グループワーク評価、レポート評価の総合評価とする。

授業計画		チェック欄
第1回	酵素Ⅱ（AST・ALT)測定①　講義	
第2回	酵素Ⅱ（AST・ALT)測定　グループワーク②	
第3回	酵素Ⅱ（AST・ALT)測定　グループワーク③	
第4回	酵素Ⅱ（AST・ALT)測定　グループワーク④	
第5回	酵素Ⅱ（AST・ALT)測定　グループワーク⑤	
第6回	酵素Ⅲ（ALP)測定①　講義	
第7回	酵素Ⅲ（ALP)測定　グループワーク②	
第8回	酵素Ⅲ（ALP)測定　グループワーク③	
第9回	酵素Ⅲ（ALP)測定　グループワーク④	
第10回	酵素Ⅲ（ALP)測定　グループワーク⑤	
第11回	血清鉄測定①　講義	
第12回	血清鉄測定　グループワーク②	
第13回	血清鉄測定　グループワーク③	
第14回	血清鉄測定　グループワーク④	
第15回	血清鉄測定　グループワーク⑤	

区分43	専門分野 遺伝子関連・染色体検査	授業科目名	遺伝子・染色体 検査学実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	松本　成良　（他）	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

病院で臨床検査技師として勤務。造血器腫瘍や予後の患者さんを遺伝子レベルで評価する遺伝子検査に従事している。また、遺伝子分析化学認定士（初級）を取得し、遺伝子検査について病院実習生への教育や研究、学会発表を経験。

◆授業の目的・目標

採取した血液検体からDNAを抽出し、核酸増幅法（PCR法）、検出法（電気泳動法）による判定までを興味を持って実践し、原理の理解と正しい検査のスキル、検査結果から正しい判定ができる思考力を磨くことを目標とする。

◆授業の概要・授業方針

病院での遺伝子検査を想定し、現場で使用する試薬や検査装置で実習を行う。実習開始前に手順の説明、実習後に検査結果を解説する。また、教科書に記載されている遺伝子の応用検査や、国家試験で重要となる内容の補足説明を分かり易く行う。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座　遺伝子・染色体検査学/医歯薬出版

◆成績評価の方法

筆記試験

授業計画		チェック欄
第1回	遺伝子検査の概要	
第2回	核酸抽出手順説明・DNA用血液検体採取	
第3回	血液からのDNA抽出実習	
第4回		
第5回	DNA抽出まとめ	
第6回	PCR法（核酸増幅法）・アガロースゲル電気泳動（核酸検出法）の説明	
第7回	PCR法による核酸増幅実習	
第8回	アガロースゲル電気泳動による増幅産物の検出実習	
第9回		
第10回	PCR法・アガロースゲル電気泳動結果解説	
第11回	応用遺伝子検査、ASPCR法手順説明	
第12回	ASPCR法実習	
第13回	ASPCR法・検出（アガロースゲル電気泳動）実習	
第14回	ASPCR法結果観察・解説	
第15回	遺伝子・染色体検査学実習まとめ	

区分45	専門分野 輸血・移植検査	授業科目名	輸血・移植検査学 実習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	古田　智春	担当教員の 実務経験	有・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

ピペットなどの基本操作を学ぶ。

免疫学的検査の機序を理解する。

国家試験問題に準拠した知識を習得する。

◆授業の概要・授業方針

検査の意義や目的を説明してから実習を行う。

実習の結果について各班毎の考えをまとめる時間を設ける。

実習の要点を再確認できるよう、解説を丁寧に行う。

小テストを用いて理解度を確認する。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座　免疫検査学/輸血・移植検査学：医歯薬出版株式会社

試料

小テスト

◆成績評価の方法

期末試験

小テスト

授業計画		チェック欄
第1回	寒冷凝集反応、マイコプラズマ抗体	
第2回		
第3回		
第4回	梅毒血清反応（RPRカードテスト、TPPA）	
第5回		
第6回		
第7回	血清補体価（CH_{50}）	
第8回		
第9回		
第10回	抗核抗体検査	
第11回		
第12回		
第13回	唾液中コルチゾール測定	
第14回		
第15回		

区分46	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義を行う。

◆授業の目的・目標
嫌気性菌、真菌、その他の微生物について、形態・性状・特徴などを学習し、微生物と環境・人（疾病、予防）との関わりを理解し、検体別の検査方法を理解する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に小試験を交えて進める。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点

授業計画		チェック欄
第1回	グラム陽性好酸性の桿菌 マイコバクテリウム科/ノカルジア科/ツカムレラ科	
第2回		
第3回		
第4回	検査材料別検査法	
第5回		
第6回		
第7回		
第8回	偏性嫌気性菌	
第9回		
第10回		
第11回	スピロヘータ科/レプトスピラ科/マイコプラズマ科/リケッチア・クラミジア科	
第12回		
第13回		
第14回	総括	
第15回		

区分47	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	横溝　勝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
国立長崎中央病院で1年半年、国立嬉野病院で9年間、国立小倉病院2年間、臨床微生物検査に従事、その経験をもとに講義・実習を行う。

◆授業の目的・目標
嫌気性菌、真菌（酵母菌・糸状菌）の検査手技を確り身に着け菌の観察・培養法・同定法を修得する。菌種の特徴を学習し、その菌種の感染症と危険性などを理解する。

◆授業の概要・授業方針
教科書・プリントを中心に嫌気性菌、真菌の講義・実習を行う。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座 微生物学/臨床微生物学（医歯薬出版）
臨床微生物検査ハンドブック/三輪書店

◆成績評価の方法
定期試験・出席点・実習態度

授業計画		チェック欄
第1回	真菌学総論・各論	
第2回		
第3回		
第4回	真菌同定検査講義、真菌復習問題	
第5回	真菌（糸状菌）実習説明	
第6回	真菌（糸状菌）実習	
第7回		
第8回		
第9回	糸状菌まとめ、酵母実習説明	
第10回	真菌（酵母）実習	
第11回		
第12回	真菌（酵母）実習・まとめ	
第13回	嫌気性菌実習	
第14回		
第15回		
第16回	嫌気性菌まとめ	

区分49	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学① 実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・心周期を理解する。
・心音図検査における心雑音と疾患の関係を理解する。
・心エコー図における弁膜疾患と心雑音の関係を理解する。
・脈管疾患検査の臨床的意義と方法、結果の解釈ができる。

◆授業の概要・授業方針

・2年次前期の復習（再履修）
・心音計、各種脈管疾患検査に用いる機器がないのでデモンストレーション形式での実習とする。
・少人数のグループに分かれ、各日程に従って実習を行う。
・測定した結果の

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

・期末試験（8割）
・実技点（2割）

授業計画		チェック欄
第1回	循環器検査の基礎、心周期と血圧（教科書P9）	
第2回	心周期と心音の成因、心音図記録の実際	
第3回 第4回	異常心音図（心雑音）・心エコー図から弁膜疾患・先天性心疾患を診断する。	
第5回 第6回	脈管疾患検査（ABI、TBI、SPP、PWV、FMD）の臨床的意義、方法、結果の解釈	
第7回 第8回	オリエンテーション（実習概要）、グループ打合せ	
第9回 第10回	心エコー、心音図実習	
第11回 第12回	ABI、PWV、TBI、FMD実習	
第13回 第14回	心音図実技テスト	
第15回 第16回	ABI、PWV実技テスト	

区分50	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学②	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

体循環・肺循環を解剖学から復習する。呼吸機能検査の種類・方法を学び、国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。

◆授業の概要・授業方針

解剖・臨床生理を関連付け、国家試験問題にも取り組む。呼吸機能検査においては、スパイログラムを完璧に答えられるように理解し、3年生へも繋げたい。血液ガス分析は苦手意識が多いため、払拭できるよう練習問題に取り組む。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「生理機能検査学（第2版）」

◆成績評価の方法

期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	心臓の解剖	
第2回	肺の解剖①	
第3回	肺の解剖②	
第4回	肺循環	
第5回	呼吸機能検査の実際	
第6回	呼吸機能検査の種類・方法・目的	
第7回	国家試験問題	
第8回	国家試験問題	
第9回	血液ガス	
第10回	国家試験問題	

区分51	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学② 実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の 実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

体循環・肺循環を解剖学から復習する。呼吸機能検査の種類・方法を学び、国家試験問題に対応できる知識を身に付ける。検査者・被験者共に経験し、臨地実習で行えるようにする。

◆授業の概要・授業方針

呼吸機能検査の声掛けなど実践的な内容を学ぶ。受身にならないようディスカッションも取り入れ、興味を持てる授業展開としたい。実習機器の数に制限があるため、空き時間が出ないよう課題（問題やパワーポイント資料作り）を出し、グループで課題にあたるようにする。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「生理機能検査学（第2版）」

◆成績評価の方法

期末試験

授業計画		チェック欄
第1回	呼吸機能検査の実際	
第2回	呼吸機能検査の声掛け方法	
第3回	スパイログラム	
第4回	スパイログラム	
第5回	スパイログラムより得られた自己結果の解釈	
第6回	スパイログラムより得られた自己結果の解釈	
第7回	課題の解答解説	
第8回	課題の解答解説	
第9回	課題の解答解説	
第10回	課題（パワーポイント資料）発表会	
第11回	国家試験問題	
第12回	国家試験問題	
第13回	国家試験問題	
第14回	国家試験問題	
第15回	国家試験問題	
第16回	まとめ	

区分55	専門分野 生理学的検査	授業科目名	画像検査学実習	単位数	1単位 （32時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	高橋　雄大	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
消化器・上下肢血管・心臓・関節・甲状腺超音波検査・MRI検査

◆授業の目的・目標
超音波検査・MRI検査に必要な知識や手技について学ぶ。

◆授業の概要・授業方針
主に腹部・心臓・血管の超音波検査の画像が描出できるようになるように実習を行う。

◆テキスト・参考資料等
医歯薬出版/臨床検査学講座　生理機能検査学

◆成績評価の方法
定期試験・実技評価

授業計画		チェック欄
第1回	腹部超音波検査実習（超音波装置の操作・肝臓）	
第2回	腹部超音波検査実習（超音波装置の操作・肝臓）	
第3回	腹部超音波検査実習（肝臓・胆のう）	
第4回	腹部超音波検査実習（肝臓・胆のう）	
第5回	腹部超音波検査実習（膵臓・腎臓・脾臓）	
第6回	腹部超音波検査実習（膵臓・腎臓・脾臓）	
第7回	腹部超音波検査実技評価	
第8回	腹部超音波検査実技評価	
第9回	心臓超音波検査学実習　基本画像の描出	
第10回	心臓超音波検査学実習　基本画像の描出	
第11回	心臓超音波検査学実習　計測・ドップラー機能	
第12回	心臓超音波検査学実習　計測・ドップラー機能	
第13回	その他の超音波検査実習	
第14回	その他の超音波検査実習	
第15回	心臓超音波検査　実技評価	
第16回	心臓超音波検査　実技評価	

区分58	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	検査管理総論	単位数	1単位 （24時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	諸隈　博	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

・検体検査から生理検査までの全体的な経験（採血業務・検体取り扱いに関する注意事項、検査の精度保証、接遇など）があり、また技師長職としての検査室の安全管理など検査室全般の管理業務の経験を有する。

◆授業の目的・目標

①医療施設における検査室の役割や業務内容、及び医療における検査情報の重要性を理解する。
②臨床検査の全領域における検体の適切な処理方法・保存法について学習する。
③患者全体情報の信頼性を保証するための精度管理の重要性やその評価方法を理解する。
④検査の医療安全管理と倫理を学ぶ。

◆授業の概要・授業方針

①講義を中心に行う。臨床検査技師の成り立ち、臨床検査技師教育などについて法律を交えて学習する。
②検査管理業務に必要な用語の解説、検体の取り扱い、臨床検査の生命線と言える精度管理業務についても基礎的なことを中心に学習し、関連する科目の授業にも役立たせる。
③さらには国家試験を意識した内容として充実させる。
④小テストを織り交ぜ、定期試験を迎える。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座　検査総合管理学
・講師作成資料など

◆成績評価の方法

・出欠状況　・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	1章　臨床検査技師の役割と使命　　2章　臨床検査の意義	
第2回	3章　臨床検査部門の業務と管理-1	
第3回	3章　臨床検査部門の業務と管理-2	
第4回	4章-1　検体の採取と保存①	
第5回	4章-1　検体の採取と保存②	
第6回	4章-1　検体の採取と保存③　　4章ー2　検査の受付と報告	
第7回	5章　検査の精度保障1	
第8回	5章　検査の精度保障2	
第9回	5章　検査の精度保障3	
第10回	5章　検査の精度保障4	
第11回	5章　検査情報	
第12回	6章　検査の安全管理と倫理、その他	

区分60	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	薬理学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	岡本　信惠	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

愛媛県立衛生研究所で感染症サーベイランス事業、成人病、ATL.B型肝炎、糖尿病等の疫学に関する研究。腎移植センター兼務となり腎移植、骨髄移植の適合検査を担当
HLAワークショップに参加

対馬いづはら病院にて調剤業務、TDMを行う

◆授業の目的・目標

臨床検査値は治療薬そのものや他の医師による処方薬、一般用医薬品あるいは職場での化学物質の暴露などの影響によりその疾患でみられるべき検査値の変化が正確に反映されないことがある。
薬理学を学ぶことによりチーム医療の一員として検査値を正しくアセスメントできるようにする。

◆授業の概要・授業方針

講義と演習をとおして薬理学の総論を習得する

◆テキスト・参考資料等

南山堂
エース薬理学

◆成績評価の方法

授業計画		チェック欄
第1回	薬理学とは	
第2回	医薬品と食品の違い	
第3回	薬物の投与経路	
第4回	薬物の生体への作用について	
第5回	薬の運命	
第6回	薬物相互作用PK	
第7回	薬物相互作用PD	
第8回	薬物と臨床検査	
第9回	まとめ	
第10回	演習	

区分61	専門分野 医療安全管理	授業科目名	医療安全管理学	単位数	2単位 （40時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	森　英恵	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
総合病院にて感染管理認定看護師を取得し感染制御センター（部門）で勤務している。
その経験や知識をもとに、医療安全管理学の講義を行う。
看護師の日常業務として行っていた検体採取のスキルが身に付くよう導く。
チーム医療を実践している部門に所属している経験をもとに講義を行う。

◆授業の目的・目標
【目的】
臨床検査技師として必要な医療安全や感染対策の知識を習得する。
【目標】
安全で安心な医療を提供するために、臨床検査技師に必要な医療安全や感染対策の基礎知識を学ぶ。
医療安全や感染対策を踏まえた検体採取の手技を学ぶ。

◆授業の概要・授業方針
講義形式の他、グループワークや演習を通し、臨床の場で必要な医療安全や感染予防の知識を習得する。

◆テキスト・参考資料等
最新臨床検査学講座　医療安全管理学　第2版
必要時、プリントを配布する。

◆成績評価の方法
・グループワーク
（態度・内容・提出物提出状況を評価）
・筆記試験
上記を合計した評価となる。

	授業計画	チェック欄
第1回	ヒューマンエラー：　1）リスクマネジメント	
第2回	ヒューマンエラー：　2）なぜ、医療安全を学ぶのか考える　3）病院における医療安全の取り組み紹介	
第3回	医療安全とコミュニケーション：　1）情報伝達エラー　2）患者参加の医療安全	
第4回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　1）臨床検査技師の検体採取	
第5回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（採血・静脈路確保）	
第6回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（採血・静脈路確保）	
第7回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（造影剤注入等）	
第8回	検体採取における安全対策・感染防止対策；　2）各部位からの検体採取（皮下グルコース検査）	
第9回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（内視鏡検体採取）	
第10回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（吸引痰）	
第11回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（吸引痰）	
第12回	検体採取における安全対策・感染防止対策：　2）各部位からの検体採取（肛門機能）	
第13回	医療事故対応、事故分析方法：　1）患者取り違え、検体取り違え（KYT）	
第14回	医療事故対応、事故分析方法：　1）患者取り違え、検体取り違え（KYT）	
第15回	医療事故対応、事故分析方法：　2）事例をもとに分析　（なぜなぜ分析）	
第16回	医療事故対応、事故分析方法：　2）事例をもとに分析　（なぜなぜ分析）	
第17回	事故発生時の対応　患者誤認防止	
第18回	標準予防策：　1）手指衛生　2）個人防護具　3）職業感染	
第19回	感染経路別予防策：　1）接触、飛沫予防策　2）空気予防策	
第20回	チーム医療：　1）チーム医療　2)ICT活動からチーム医療を考える	

区分62	専門分野 臨地実習	授業科目名	臨地実習技能修得 到達度評価	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	2年　後期	担当教員	古田　智春	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

平成6年4月～平成30年6月　検査センター勤務：生化学検査、微生物検査、一般検査、血液検査、輸血検査

平成30年7月～平成30年12月　クリニック勤務：採血業務

◆授業の目的・目標

生理学的検査、血液学的検査、尿・糞便検査等、輸血・移植検査、微生物学的検査、病理学的検査について「臨地実習前技能到達度評価」基準を満たす技能を修得する事。

◆授業の概要・授業方針

各科目の担当講師が「臨地実習前技能到達度評価」の合格基準を説明し、試験日を設ける。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査技師　臨地実習ハンドブック：医歯薬出版株式会社

◆成績評価の方法

実技試験

授業計画		チェック欄
第1回	臨地実習前技能到達度評価（1）	
第2回	臨地実習前技能到達度評価（2）	
第3回	臨地実習前技能到達度評価（3）	
第4回	臨地実習前技能到達度評価（4）	
第5回	臨地実習前技能到達度評価（5）	
第6回	臨地実習前技能到達度評価（6）	
第7回	臨地実習前技能到達度評価（7）	
第8回	臨地実習前技能到達度評価（8）	
第9回	臨地実習前技能到達度評価（9）	
第10回	臨地実習前技能到達度評価（10）	
第11回	臨地実習前技能到達度評価（11）	
第12回	臨地実習前技能到達度評価（12）	
第13回	臨地実習前技能到達度評価（13）	
第14回	臨地実習前技能到達度評価（14）	
第15回	臨地実習前技能到達度評価（15）	

区分14	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生理学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・解剖生理学（循環器系・呼吸器系・神経系）の基礎知識を整理する。
・生理機能検査（心電図・呼吸機能検査・脳波・筋電図検査等など）の原理、意義、応用を理解する。
・国家試験に対応できる知識を身につける。

◆授業の概要・授業方針

・1年次に履修した生理学の中でも特に重要な章の再履修
・暗記が必要な知識の小テスト
・授業の最後に関連した国家試験過去問や模擬試験問題を出題する

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理学」第１版　（医歯薬出版）
・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）

◆成績評価の方法

卒業認定試験で生理学科目点6割以上、または総合点で6割（120点）以上を合格とする。

授業計画		チェック欄
第1回	細胞・組織・器官	
第2回	循環の基礎（心筋の生理、心周期）	
第3回	循環系の調節（心拍出量、心拍数、血管リモデリング、血圧）	
第4回	呼吸器系の基礎（肺換気、肺循環）	
第5回	ガス交換、酸素解離曲線	
第6回	呼吸調節（化学調節など）	
第7回	腎臓の機能、酸−塩基平衡	
第8回	神経生理の基礎、シナプス	
第9回	中枢神経、末梢神経、自律神経	
第10回	感覚器（体性感覚、視覚、聴覚、前庭覚、味覚、嗅覚）	

区分15	専門基礎分野 人体の構造と機能	授業科目名	生化学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

生命を分子レベルで解き明かすことに興味をもち、国家試験出題基準に準拠し、ヒトの代謝を中心に学んでいく。

◆授業の概要・授業方針

教科書・パワーポイントを使用し、理解度を深めていく。練習問題による知識の定着を図る。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/臨床化学検査学（第2版）、臨床検査学講座/生化学、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本、日本臨床検査学教育協議会/国家試験問題集

◆成績評価の方法

出席状況・校内模擬試験

授業計画		チェック欄
第1回	国家試験対策①グルコース	
第2回	国家試験対策②脂質代謝	
第3回	国家試験対策③アミノ酸	
第4回	国家試験対策④核酸	
第5回	国家試験対策⑤核酸代謝	
第6回	国家試験対策⑥酵素	
第7回	国家試験対策⑦ホルモン	
第8回	国家試験対策⑧酸・塩基平衡	
第9回	国家試験対策⑨腎機能	
第10回	国家試験対策⑩金属	

区分24	専門基礎分野 医用工学及び医療情報	授業科目名	医用工学概論実習 （情報科学）	単位数	1単位 （16時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	船津　由季子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容
民間企業においてプログラマーおよびインストラクターとして勤務
社内で使用していたシステムの操作方法をレクチャーする
また職業訓練校において、情報処理の授業、検定・国試対策などを受け持つ

◆授業の目的・目標
・臨床検査技師試験合格に向けて、医用工学（情報科学）分野理解と正答率アップ

◆授業の概要・授業方針
過去問やプリントなど、徹底解析

◆テキスト・参考資料等
・情報活用試験3級テキスト
・過去問題集
・過去模擬試験

◆成績評価の方法
定期試験評価
課題提出

授業計画		チェック欄
第1回	情報関連プリント	
第2回		
第3回		
第4回	過去問題　解説	
第5回		
第6回		
第7回	学生手持ち問題集　解説	
第8回		

区分29	専門分野 病態学	授業科目名	病態解析学演習	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	3年　前期・後期	担当教員	藤田　修一	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

長崎大学熱帯医学研究所で病理解剖の実務経験がある。現在、長崎大学病院で、病理組織診断・細胞診業務に携わっている。

◆授業の目的・目標

病態解析学（病態学／臨床検査医学総論）は医療分野での専門知識と技術を習得するために必要な、医学の基礎を学ぶ科目で、臨床検査により、病態を解析し、診断・治療方針の決定・経過の観察・予後判定に寄与する臨床医学である。授業は疾患の原因や成り立ちを講義し、これに基づいて、検査の意義を理解し、検査結果を解釈できることを目的とする。

◆授業の概要・授業方針

授業では、臓器別・原因別に疾患の病態を概説し、対応する検査法や、その意義と結果の解釈を解説する。多数の臓器にわたって異常をきたす疾患も多いので留意すること。本授業は国家試験の対策としての側面もあるため、既出の国家試験問題に即して授業を進める。

◆テキスト・参考資料等

・指定の国家試験問題集
・最新臨床検査学講座　病態学／臨床検査医学総論（奈良信雄　他編　医歯薬出版）

◆成績評価の方法

卒業認定試験（単位認定試験）

授業計画		チェック欄
第1回	序論、病気の症状と検査	
第2回	循環器疾患	
第3回	呼吸器疾患	
第4回	消化器疾患	
第5回	肝・胆・膵疾患	
第6回	血液・造血器疾患	
第7回	内分泌疾患	
第8回	腎・尿路疾患	
第9回	神経・運動器疾患	
第10回	感染症	
第11回	血液検査の異常	
第12回	体液・電解質・酸−塩基平衡の異常	
第13回	免疫異常	
第14回	代謝・栄養障害	
第15回	染色体・遺伝子の異常、悪性腫瘍の検査	

区分30	専門分野 病態学	授業科目名	特殊分析検査学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

体内物質の代謝と機能及び臨床的意義を理解しその測定法・測定原理を学ぶ。疾患と検査項目、検査値の臨床的意義を理解する。

◆授業の概要・授業方針

教科書・パワーポイントを使用し、理解度を深めていく。練習問題による知識の定着を図る。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査学講座/臨床化学検査学（第2版）、JMAT技術教本シリーズ/臨床化学検査　技術j教本、日本臨床検査学教育協議会/国家試験問題集

◆成績評価の方法

出席状況・校内模擬試験

授業計画		チェック欄
第1回	ホルモン①	
第2回	ホルモン②	
第3回	各種病態と疾患マーカー①	
第4回	各種病態と疾患マーカー②	
第5回	各種病態と疾患マーカー③	
第6回	生化学検査データーの読み方①	
第7回	生化学検査データーの読み方②	
第8回	生化学検査データの読み方③	
第9回	総まとめ①	
第10回	総まとめ②	

区分31	専門分野 血液学的検査	授業科目名	血液検査学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	今村　文章	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

三菱病院に5年間、諫早総合病院に34年間、合計39年臨床検査技師として勤務。その間、血液検査を専門として臨床実務を経験。その間、日臨技血液検査研究会の全国委員、平成8年からは班長を務めた。平成4年からは本校の非常勤講師として血液学を担当して以来32年目となる。

◆授業の目的・目標

国家試験に必要な知識について、1年次、2年次、3年の臨地実習等で学んだ知識と技術を再度まとめ、知識の総整理を行い特に過去門の重要性を説きながら国家試験合格を目指す。

◆授業の概要・授業方針

最終目標である国家試験の過去問から得られる重要ポイントを押さえながら、学生の疑義・質問を重視し、個々の知識を引き上げる。

◆テキスト・参考資料等

基本は教科書であるが、各社の過去問集などを活用する。

◆成績評価の方法

卒認試験で評価する。

授業計画		チェック欄
第1回	血液基礎	
第2回	凝固・線溶	
第3回	形態	
第4回	CBC	
第5回	各種染色	
第6回	検査技術（1）	
第7回	検査技術（2）	
第8回	血液疾患（1）	
第9回	血液疾患（2）	
第10回	国試過去問から見る出題傾向	

区分33	専門分野 病理学的検査	授業科目名	病理検査学	単位数	1単位 （16時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	秀島　克巳	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院（現長崎大学病院）より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査（細胞診検査）に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年 1月島根大学医学部助教（学内講師）として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究（細胞診断学）を行ってきた。

◆授業の目的・目標

病理検査学の全体的な復習を行い、国家試験合格を目指す。

◆授業の概要・授業方針

①病理検査学実習（組織及び細胞診）の復習、病理学総論、各論の復習。
②国家試験形式の問題で実践力を養う。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学講座（医歯薬出版株式会社）*病理学/病理検査学
染色法のすべて（医歯薬出版株式会社）
細胞診を学ぶ人のために（医学書院）

◆成績評価の方法

出席状況・卒業認定試験

授業計画		チェック欄
第1回	国試対策　＊病理組織標本作製の手順（固定～薄切）凍結切片標本作製	
第2回	国試対策　＊病理組織標本作製の手順（固定～薄切）凍結切片標本作製	
第3回	国試対策　＊一般染色	
第4回	国試対策　＊特殊染色	
第5回	国試対策　＊免疫組織化学的染色ほか	
第6回	国試対策　＊電子顕微鏡、病理解剖、病理検査業務の管理	
第7回	国試対策　＊細胞診	
第8回	国試対策　＊まとめ	

区分46	専門分野 微生物学的検査	授業科目名	微生物検査学	単位数	1単位 （10時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	福田　肇	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

平成8年～平成31年：微生物検査従事

◆授業の目的・目標

後期：臨地実習を踏まえさらなる知識の習得と国家試験へ向けての知識向上。

◆授業の概要・授業方針

1・2年次の復習と国家試験過去出題項目を参考に、課題模擬問題を行い、国家試験対策を行う。

◆テキスト・参考資料等

最新臨床検査学口座　臨床微生物学；医歯薬出版　微生物検査ナビ第2班；栄研化学株式会社

◆成績評価の方法

単位認定試験、卒業認定試験、講義毎の課題・出席点

授業計画		チェック欄
第1回	細菌の構造、形態と染色性	
第2回	培養条件と使用培地	
第3回	消毒、滅菌、および感染と予防（関係法規含む）	
第4回	薬剤感受性と耐性菌	
第5回	偏性嫌気性菌、真菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア	

区分48	専門分野 生理学的検査	授業科目名	臨床生理検査学①	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

国家試験に対応できる下記の知識を身につける。
・心電計の構成、アーチファクト対応、心電図波形の計測、異常心電図の判読・対応
・運動負荷心電図、ホルター心電図、加算平均心電図の適応と方法
・心音図検査における心雑音と心疾患の関係、脈管疾患検査の臨床的意義と方法、結果の解釈
・脳波、筋電図、感覚機能検査の適用と方法および結果の解釈

◆授業の概要・授業方針

・国家試験過去問や模擬試験問題を解説し理解を深める。
・暗記が必要な図表や重要ポイントを示し、小テストで確認する。
・画像問題対策を強化する。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理学」第１版　（医歯薬出版）
・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

卒業認定試験で臨床生理学の科目点6割以上、または総合点で6割（120点）以上を合格とする。

授業計画		チェック欄
第１回	第1～5回校内模擬試験　解説	
第２回	心電図重要ポイント	
第３回	第1回医歯薬模試　解説	
第４回	心電図ケーススタディー（不整脈、虚血性心疾患など）	
第５回	心雑音と心音図・心エコー図重要ポイント	
第６回	脈管疾患検査重要ポイント、ケーススタディー（ABI、PWV、FMDなど）	
第７回	脳波重要ポイント、脳波ケーススタディー（てんかんなど）	
第８回	第1回研修協会模試　解説	
第９回	筋電図重要ポイント、筋電図ケーススタディー（針筋電図、神経伝導検査など）	
第１０回	感覚機能検査重要ポイント、ケーススタディー（眼底、聴力検査など）	

区分54	専門分野 生理学的検査	授業科目名	画像検査学	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	松田　一之	担当教員の 実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

・超音波検査の基礎を理解する。
・基本的画像と走査法を理解する。
・各疾患における超音波像を理解する。

◆授業の概要・授業方針

・国家試験過去問や模擬試験問題を解説し理解を深める。
・暗記が必要な図表や重要ポイントを示し、小テストで確認する。
・必要に応じ、超音波検査実技を行い、操作法を理解する。
・画像問題対策を強化する。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座「生理機能検査学」第2版　（医歯薬出版）
・必要に応じて資料を配布する。

◆成績評価の方法

卒業認定試験で画像検査学の科目点6割以上、または総合点で6割（120点）以上を合格とする。

授業計画		チェック欄
第1回	超音波検査の原理と測定法（超音波の性質、プローブ）	
第2回	超音波検査の原理と測定法（パルスドプラ法、連続波ドプラ法、カラードプラ法、アーチファクト）	
第3回	心臓超音波検査の基本的画像と走査法	
第4回	心疾患における超音波像	
第5回	心疾患における超音波像	
第6回	腹部超音波検査の基本走査	
第7回	肝、胆、膵、腎における正常超音波像と主な疾患超音波像	
第8回	甲状腺、乳腺、骨盤腔における正常超音波像と主な疾患超音波像	
第9回	頚動脈、下肢動脈、下肢深部静脈血栓症のスクリーニング検査法	
第10回	MRI検査、熱画像検査	

区分56	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	臨床検査総論	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	3年　前期・後期	担当教員	坂口　みどり	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

検査センター勤務後、九州医学技術専門学校

◆授業の目的・目標

国家試験対策と尿沈渣判読

◆授業の概要・授業方針

国家試験問題を○×形式にしたファーストトレーニングに取り組む。尿沈渣も思い出せるよう繰り返し行う。国家試験出題基準に準じた問題作成にも教科書を参考に取り組む。受身にならないようディスカッションも取り入れ、興味を持てる授業展開としたい。

◆テキスト・参考資料等

医歯薬出版　最新　臨床検査学講座「一般検査学」

◆成績評価の方法

卒業認定試験

授業計画		チェック欄
第1回	一般検査手技確認	
第2回	尿沈渣	
第3回	ファーストトレーニング1～200	
第4回	ファーストトレーニング1～12、作問1-A、尿沈渣	
第5回	ファーストトレーニング13～26、作問1-B、尿沈渣	
第6回	ファーストトレーニング27～41、作問1-B、尿沈渣	
第7回	ファーストトレーニング42～58、作問1-C-a・b・c、尿沈渣	
第8回	ファーストトレーニング56～68、作問1-C-d・e・f・g、尿沈渣	
第9回	ファーストトレーニング69～81、作問1-D、尿沈渣	
第10回	ファーストトレーニング82～94、作問1-D、尿沈渣	
第11回	ファーストトレーニング95～117、作問1-D、尿沈渣	
第12回	ファーストトレーニング118～138作問1-E・F、尿沈渣	
第13回	ファーストトレーニング140～168、作問2、尿沈渣	
第14回	ファーストトレーニング169～181、作問3、尿沈渣	
第15回	ファーストトレーニング182～200、作問4、尿沈渣	

区分58	専門分野 臨床検査総合管理	授業科目名	検査管理総論	単位数	1単位 （20時間）
開講時期	3年　後期	担当教員	諸隈　博	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容

・39年間の臨床検査業務（ルーチンワーク、時間外業務）において、種々の機器・装置の基本的なことを経験している。
・また、臨床検査業務の全体的な経験（採血業務・検体取り扱いに関する注意事項、検査の精度保証、接遇など）があり、さらに技師長職としての検査室の安全管理など検査室全般の管理業務の経験を有する。

◆授業の目的・目標

①1・2年時の「機器総論」「管理総論」の重点事項を復習し、卒業認定試験対策としての十分な知識を習得する。
②さらには最終目的としての国家試験合格を目指した対策にもつなげる。

◆授業の概要・授業方針

①「機器総論」の重点事項を復習する。　②「管理総論」の重点事項を復習する。
③それらの形式としては「語句記入形式」「国家試験問題形式」を用い、重点事項をよく理解した上で国家試験対策のみでなく、卒業後の実践力としてのルーチンワークにも生かせるレベルに繋げる。

◆テキスト・参考資料等

・最新臨床検査学講座　検査機器総論/医歯薬出版
・最新臨床検査学講座　検査総合管理学
・講師作成資料など

◆成績評価の方法

・出欠状況
・卒業認定試験

授業計画		チェック欄
第1回	国試対策：機器総論①（化学容量器～分離分析装置）	
第2回	国試対策：機器総論②（攪拌装置～測光装置）	
第3回	国試対策：機器総論③（顕微鏡装置）	
第4回	国試対策：機器総論④（電気化学装置～純水製造装置、その他）	
第5回	国試対策：管理総論①（第1章～3章　臨床検査の意義、臨床検査部門の管理と業務　等）	
第6回	国試対策：管理総論②（第4章-1　検体の採取と保存）	
第7回	国試対策：管理総論③（第4章-2　検査の受付と報告　　5章　検査の精度保障1）	
第8回	国試対策：管理総論④（5章　検査の精度保障2）	
第9回	国試対策：管理総論⑤（5章　検査の精度保障3）	
第10回	国試対策：管理総論⑥（5章　検査情報　　6章　検査の安全管理と倫理、その他）	

区分62	専門分野 臨地実習	授業科目名	臨地実習技能修得到達度評価	単位数	1単位 （30時間）
開講時期	3年　前期	担当教員	加藤　晶子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

（株）SRL細胞病理研究所にて病理全般を担当。クインタイルズジャパン株式会社にて、治験業務に携わる。西日本予防医学協会で健康診断業務担当。大分大学医学部にて診断病理部に在籍、主に免疫染色担当。 大分岡病院にて輸血・一般・生理機能全般を担当。諫早療育センターにて、血液・一般・脳波・心電図など検査全般を担う。

◆授業の目的・目標

臨地実習前技能修得到達度評価に基づき、実習生として必要な知識・技術レベルの向上を目的とする。

◆授業の概要・授業方針

臨地実習ハンドブックに基づき、OSCE実施による各項目の技術の向上をめざし、最終的なテストによる技術確認を行う。

◆テキスト・参考資料等

臨床検査技師　臨地実習ハンドブック

◆成績評価の方法

各担当教員による技術到達確認を実施する。

	授業計画	チェック欄
第1回	臨地実習前技能修得到達実習①	
第2回	臨地実習前技能修得到達実習②	
第3回	臨地実習前技能修得到達実習③	
第4回	臨地実習前技能修得到達実習④	
第5回	臨地実習前技能修得到達実習⑤	
第6回	臨地実習前技能修得到達実習⑥	
第7回	臨地実習前技能修得到達実習⑦	
第8回	臨地実習前技能修得到達実習⑧	
第9回	臨地実習前技能修得到達実習⑨	
第10回	臨地実習前技能修得到達実習⑩	
第11回	臨地実習前技能修得到達実習⑪	
第12回	臨地実習前技能修得到達実習⑫	
第13回	臨地実習前技能修得到達実習⑬	
第14回	臨地実習前技能修得到達実習⑭	
第15回	臨地実習前技能修得到達実習⑮	

区分1	医療秘書科	授業科目名	医療事務	時間数	168時間 （84コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝・西田　聖子	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関での診療報酬業務（医業収益関連）
・保険審査・査定・返戻対策に関する業務
・外来・入院、請求・点検業務
・医事システム関連業務
・診療情報管理業務

◆授業の目的・目標
・医療保険制度の理解
・診療報酬請求事務能力試験検定対策
・医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）の検定対策

◆授業の概要・授業方針
・窓口業務から診療報酬明細書（レセプト）の医療事務の基礎を学ぶ
・多種類の法律の制約をうけ、法令に基づき医療の専門職として医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律・法規等を理解する
・医療機関は多種類の法律の制約をうけ、法令に基づく仕事が多いことから、医療の専門職として医療法をはじめ、医療従事者関連の各　法律・法規等を理解する・各法律・法規等を理解する法律・法規等を理解する
・座学と実技の双方で社会人基礎知識を論理的に身につける

◆テキスト・参考資料等
・医療事務講座1～4・スタディブック
・各検定受験対策・問題集
・診療点数早見表
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・確認小テスト
・定期試験

	授業計画	担当教員	チェック欄
第1回	・.授業の進め方・教科書（テキスト）の使い方・診療点数表早見表・各検定試験について	萬谷	
第2回	・医療機関と医療事務、医療保険制度：医療保険とは	西田	
第3回	・.初診と再診（レセプト記載）	萬谷	
第4回	・.初診と再診	萬谷	
第5回	・小テスト	萬谷	
第6回	・医学管理料（レセプト記載）	萬谷	
第7回	・医療保険制度：保険料と医療給付	西田	
第8回	・医学管理料（レセプト記載）	萬谷	
第9回	・小テスト	萬谷	
第10回	・在宅医療（レセプト記載）	萬谷	
第11回	・在宅医療（レセプト記載）	萬谷	
第12回	・小テスト	萬谷	
第13回	・処置（レセプト記載）	萬谷	
第14回	・処置（レセプト記載）	萬谷	
第15回	・小テスト	萬谷	
第16回	.・医療保険制度：療養の給付について	西田	
第17回	・手術（レセプト記載）	萬谷	
第18回	・手術（レセプト記載）	萬谷	
第19回	・小テスト	萬谷	
第20回	・検査（レセプト記載）	萬谷	
第21回	・療保険制度：医療保険の種類	西田	
第22回	・検査（レセプト記載）	萬谷	
第23回	・検査（レセプト記載）	萬谷	
第24回	・小テスト	萬谷	
第25回	・病理診断（レセプト記載）	萬谷	
第26回	・病理診断（レセプト記載）	萬谷	
第27回	・小テスト	萬谷	
第28回	・初診・再診～病理診断まで復習・テスト・解説	萬谷	
第29回	・初診・再診～病理診断まで復習・テスト・解説	萬谷	
第30回	・リハビリテーション（レセプト記載）	萬谷	

第31回	・リハビリテーション（レセプト記載）	萬谷	
第32回	・医療保険制度：被保険者証について①	西田	
第33回	・小テスト	萬谷	
第34回	・精神科専門療法（レセプト記載）	萬谷	
第35回	・精神科専門療法（レセプト記載）	萬谷	
第36回	・小テスト	萬谷	
第37回	・放射線治療（レセプト記載）	萬谷	
第38回	・放射線治療（レセプト記載）	萬谷	
第39回	・医療保険制度：被保険者証について②確認テスト・	西田	
第40回	・小テスト	萬谷	
第41回	・リハビリテーション～放射線治療まで復習・テスト・解説	萬谷	
第42回	・リハビリテーション～放射線治療まで復習・テスト・解説	萬谷	
第43回	・入院料等（レセプト記載）	萬谷	
第44回	・入院料等（レセプト記載）	萬谷	
第45回	・入院料等（レセプト記載）	萬谷	
第46回	・小テスト	萬谷	
第47回	・投薬（処方箋）（レセプト記載）	萬谷	
第48回	・投薬（処方箋）（レセプト記載）	萬谷	
第49回	・投薬（処方箋）（レセプト記載）	萬谷	
第50回	・小テスト	萬谷	
第51回	・注射（レセプト記載）	萬谷	
第52回	・注射（レセプト記載）	萬谷	
第53回	・注射（レセプト記載）	萬谷	
第54回	・後期高齢者医療制度	西田	
第55回	・小テスト	萬谷	
第56回	・画像診断（レセプト記載）	萬谷	
第57回	・画像診断（レセプト記載）	萬谷	
第58回	・画像診断（レセプト記載）	萬谷	
第59回	・その他の制度：公費負担制度・介護保険制度・	西田	
第60回	・小テスト	萬谷	
第61回	・初診・再診～画像診断まで復習・テスト・解説	萬谷	
第62回	・初診・再診～画像診断まで復習・テスト・解説	萬谷	
第63回	・初診・再診～画像診断まで復習・テスト・解説	萬谷	
第64回	・模擬試験（1回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第65回	・模擬試験（1回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第66回	・模擬試験（1回目）（診療報酬請求事務能力試験）・解釈・質問	萬谷	
第67回	・模擬試験（2回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第68回	・模擬試験（2回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第69回	・模擬試験（2回目）（診療報酬請求事務能力試験）・解釈・質問	萬谷	
第70回	.・模擬テスト①	萬谷	
第71回	・模擬試験（3目）（診療報酬請求事務能力試験）	西田	
第72回	・模擬試験（3回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第73回	・模擬試験（3回目）（診療報酬請求事務能力試験）・解釈・質問・模擬テスト②	萬谷	
第74回	.・模擬テスト②	西田	
第75回	・模擬試験（4回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第76回	・模擬試験（4回目）（診療報酬請求事務能力試験）	萬谷	
第77回	・模擬試験（4回目）（診療報酬請求事務能力試験）・解釈・質問	萬谷	
第78回	・グループ学習（総合復習・質問）	萬谷	
第79回	・グループ学習（総合復習・質問）	萬谷	
第80回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	萬谷	

第81回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験(メディカルクラーク)】	萬谷	
第82回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験(メディカルクラーク)】	萬谷	
第83回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験(メディカルクラーク)】	萬谷	
第84回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験(メディカルクラーク)】	萬谷	

区分2	医療秘書科	授業科目名	医療実務	時間数	30時間 （15コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

・総合窓口、会計、診療報酬請求事務等業務
・行政機関との公費取り扱い業務

◆授業の目的・目標

・医療秘書に求められる医学・医療の知識を持ち、医療現場や臨床研究における医師の事務業務、ヒトやモノの段取りをする知識技能を修得し、かつ実践できる。
・ 医療秘書として機密保持とプライバシー保護の意識を持ち、責任感と品位を身につけ、他者に配慮し信頼を得ることができる
・昨今の医療問題の背景や現状を考え、解決するための基礎的知識を身につける
・関係法規の主な分野である法の概念・看護法・医事法・保健衛生法・薬務法・環境衛生法・社会保険法・福祉法・労働法と社会基盤整備・環境法について、目的と内容について理解する

◆授業の概要・授業方針

・医療・福祉の諸制度を体系的に理解できるよう授業を進めていく
・医療現場での体験談を交えながら、わが国の医療の現状についても分かりやすく解説する
・現代社会における関係法規の目的と内容について網羅的に学ぶ。関係法規を取り巻く近年の状況についても理解を深める
・単に知識として学ぶだけではなく、看護等との関係はどうなのかについて、他の科目で学んだことや日常生活や実習での経験、さらに書籍・テレビ・新聞・インターネットなどのメディア情報とも関連づけて理解する

◆テキスト・参考資料等

・「医療秘書」「医療概論」
・「医療事務に必要な医学用語辞典」
・資料配布

◆成績評価の方法

・出席状況
・授業態度
・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	・日本の医療　・医療界の現状	
第2回	・今後の展望・米の医療秘書	
第3回	・日本の医療秘書・医療秘書の役割	
第4回	・医療機関が求める人材・患者受付業務	
第5回	・医療とICT・復習	
第6回	・模擬テスト	
第7回	・医療秘書が把握すべきもの・プライマリケア・DPC・ターミナルケア	
第8回	・医療法と医療提供施設の定義と分類	
第9回	・医療関係者と法律・日本の医療保険制度の成り立ち	
第10回	・保険診療と自由診療・現代医療の課題	
第11回	・診療報酬請求事務能力試験解答解説	
第12回	・診療報酬請求事務能力試検定対策	
第13回	・診療報酬請求事務能力試験解答解説	
第14回	・復習1（医療秘書が把握すべきもの）	
第15回	・復習2（医療の実際）	

区分3	医療秘書科	授業科目名	患者接遇	時間数	10時間 （5コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・窓口対応
・診療費の説明

◆授業の目的・目標
・応対の基本
・言葉遣いの基本
・医療事務技能認定試験【実技Ⅰ】検定対応

◆授業の概要・授業方針
・患者接遇の基本を学び、就業に向けて社会人としてのマナーを身に着ける
・電話対応に苦手意識を持たないように練習を行う

◆テキスト・参考資料等
・医療事務講座2「医療現場における接遇」
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度

授業計画		チェック欄
第1回	・患者接遇の基本	
第2回	・コミュニケーションの取り方	
第3回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第4回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第5回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	

区分4	医療秘書科	授業科目名	医療知識	時間数	90時間 （45コマ）
開講時期	前期	担当教員	鳥巣 雅明	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

1982年～1985年、京都府立洛東病院リハビリテーション部にて主に脳血管疾患の理学療法に従事。1985年～2020年長崎みなとメディカルセンターにて主に整形外科疾患、脳血管疾患の理学療法業務に従事。2020年～2022年まで同センターの教育研修センターにて研修医の事務管理業務に従事。

◆授業の目的・目標

現場で求められる最低限の基礎的・基本的な医学知識の習得と、医療秘書検定3級・2級合格。

◆授業の概要・授業方針

①担当講師による講義を主体とし、グループワークなどを通して基本的な医学の理解を深め、医療関係職としての知識を習得。
②医療秘書検定3級・2級への対策。

◆テキスト・参考資料等

基礎医学（医療秘書教育全国協議会）

◆成績評価の方法

講義・実習時の態度、提出物評価、定期試験にて評価。

授業計画		チェック欄
第1回	総論	
第2回	総論	
第3回	総論	
第4回	神経系・感覚器	
第5回	神経系・感覚器	
第6回	神経系・感覚器	
第7回	循環器系	
第8回	循環器系	
第9回	循環器系	
第10回	循環器系	
第11回	血液	
第12回	血液	
第13回	血液	
第14回	運動器系	
第15回	運動器系	
第16回	運動器系	
第17回	運動器系	
第18回	運動器系	
第19回	泌尿器系	
第20回	泌尿器系	
第21回	泌尿器系	
第22回	泌尿器系	
第23回	泌尿器系	
第24回	内分泌系	
第25回	内分泌系	
第26回	内分泌系	
第27回	内分泌系	
第28回	内分泌系	
第29回	呼吸器系	
第30回	呼吸器系	

第31回	呼吸器系	
第32回	呼吸器系	
第33回	消化器系	
第34回	消化器系	
第35回	消化器系	
第36回	消化器系	
第37回	消化器系	
第38回	消化器系	
第39回	消化器系	
第40回	消化器系	
第41回	消化器系	
第42回	生殖器系	
第43回	生殖器系	
第44回	生殖器系	
第45回	生殖器系	
	※授業の進捗状況により、多少の前後及びリハビリテーション医学の追加があり得る。	

区分5	医療秘書科	授業科目名	秘書理論	時間数	28時間 （14コマ）
開講時期	前期	担当教員	永田　あかね	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関等での新入職員研修
・医療機関等でのホスピタリティ研修
・看護学校高等課程でのコミュニケーション授業
・大学でのキャリアプランニング授業　等

◆授業の目的・目標

・組織の一員として働くために高校生マインドから社会人へ意識改革を行う。
・患者接遇の基本を学び、就業に向けて社会人としてのマナーを身に付けることにより自信を付ける。
・自身の成長を確認しながら卒業後のキャリア形成を意識する。

◆授業の概要・授業方針

・コミュニケーション能力、ホスピタリティを知り、実行できるように練習する。
・様々な設定でのワークやロールプレイングを行い、現場での対応に近づけていく。
・対人、電話対応に苦手意識を持たないよう練習を重ねる。

◆テキスト・参考資料等

・医療事務講座「医療現場における接遇」
・配付資料

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	患者接遇の基本：患者・家族の心理	
第2回	望まれる医事担当者：患者接遇の場所	
第3回	応対の基本：マナーの基本≪身だしなみ・姿勢・表情・声・お辞儀≫	
第4回	応対の基本：マナーの基本≪挨拶・お伺い・ご案内≫	
第5回	応対の基本：マナーの基本≪言葉遣い≫	
第6回	好感を持たれる態度：受付での言葉がけ・気遣い	
第7回	好感を持たれる態度：クッション言葉・代案・物の受け渡し	
第8回	電話応対の基本：電話の受け方	
第9回	電話応対の基本：書類作成依頼・電話のかけ方	
第10回	患者受付の対応：窓口対応≪受付窓口①≫	
第11回	患者受付の対応：窓口対応≪会計窓口≫	
第12回	患者受付の対応：窓口対応≪受付窓口②≫	
第13回	患者受付の対応：窓口対応≪クレーム対応≫	
第14回	医療人として守るべきこと：守秘義務・個人情報保護	

区分6	医療秘書科	授業科目名	接遇実習	時間数	10時間 （5コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関での窓口応対（クレーム・モンスターペイシェント）
・企業研修

◆授業の目的・目標
・ マナーの意義・コミュニケーションマナー
・挨拶の仕方を身に付ける
・言葉使いのマナー・礼儀作法（テーブルマナー等）を身に付ける。

◆授業の概要・授業方針
・様々な設定でのロールプレーイングを行い、現場での対応に近づけていく
・社会人としてのマナーを身に着ける
・電話対応に苦手意識を持たないように練習を行う

◆テキスト・参考資料等

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度

授業計画		担当教員	チェック欄
第1回	・車椅子	松田	
第2回	・アロマテラピー	永井	
第3回	・職場のコミュニケーション：人間関係・日常の健康管理	永田	
第4回	・テーブルマナー	萬谷	
第5回	・テーブルマナー	萬谷	

区分8	医療秘書科	授業科目名	Excel 実習	時間数	40時間 （20コマ）
開講時期	前期	担当教員	下釜　綾子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

医療機関での事務経験、一般企業での実務経験の他、企業研修・公共職業訓練校・大学等で、Microsoft Office講座の講師を務めた。

◆授業の目的・目標

Excelの基本的な機能である、表の作成や数式の入力・グラフ・データベースなどの操作などを学習する。
さらに効率的な関数の活用や視覚的効果のある書類作成を行い、実務で活用できる知識と技能を習得する。

◆授業の概要・授業方針

テキストと課題を使用し、基本的な操作から、実務に即した処理や作成方法のポイントを解説し、授業を進行する。
また、テキスト以外の実務に活用できる関数の他、処理のポイントなども授業に取り入れていく。

◆テキスト・参考資料等

よくわかるExcel2019基礎（FOM出版）
よくわかるExcel2019ドリル（FOM出版）

◆成績評価の方法

受講中の操作状況、成果物の完成度などで習得度を確認し、評価を行う。

授業計画		チェック欄
第1回	Excelの基本	
第2回	〃	
第3回	データーの入力	
第4回	〃	
第5回	表の作成	
第6回	〃	
第7回	数式の入力	
第8回	〃	
第9回	複数シートの操作	
第10回	〃	
第11回	表の印刷	
第12回	〃	
第13回	グラフの作成	
第14回	〃	
第15回	データーベースの利用	
第16回	〃	
第17回	便利な機能	
第18回	〃	
第19回	ビジネス文書総合演習	
第20回	〃	

区分11	医療秘書科	授業科目名	検定対策	時間数	26時間 （13コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝・岩永　大樹	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・日医標準レセプトソフト（ORCA）
・医療事務（診療報酬請求）

◆授業の目的・目標
・各検定試験取得の準備
・医事レセプトコンピュータを用いて、医事会計の入力方法を習得
・「日医IT日レセ操作実務者」の認定試験合格を目指す
・電子カルテ3製品を用いて、医療事務の役割を学ぶ

◆授業の概要・授業方針
・日本医師会が提供する「日医標準レセプトソフトORCA」を用い、請求事務全般（日常業務から請求業務）を学ぶ
ORCAは長崎県内の医療機関450件以上で利用されている医事システム
代表的なカルテ事例を用いて講義を進め、日本医師会の認定オペレータ資格を取得する

◆テキスト・参考資料等
・日医標準レセプトソフト（ORCA）
・各検定問題集・レセプト点検攻略ドリル（医療事務　医科）

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・各検定結果

授業計画		担当教員	チェック欄
第1回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第2回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第3回	日医標準レセプトソフト（日レセORCA）の概要説明	岩永	
第4回	日医標準レセプトソフト（日レセORCA）の概要説明	岩永	
第5回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第6回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第7回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第8回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第9回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第10回	診療報酬請求事務能力試験検定対策	萬谷	
第11回	【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	萬谷	
第12回	【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	萬谷	
第13回	【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	萬谷	

区分12	医療秘書科	授業科目名	就職実務	時間数	20時間 （10コマ）
開講時期	前期	担当教員	西村　史	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容
・大学、専門学校での留学生受け入れ業務、経理、教務事務、就職指導経験あり

◆授業の目的・目標
・働くことの意義を知り、自分なりの職業観を養う。
・社会人としての基礎知識とマナーを身につける。
・自己分析を通し、自己理解を深め履歴書作成や面接対策に活かす。
最終的には自分の希望する施設からの内定獲得を目標とする。

◆授業の概要・授業方針
個人ワークの他、グループワークを行いコミュニケーション力の向上を目指す。就業に向けて応募書類作成の充実を図り、模擬面接などを行う。

◆テキスト・参考資料等
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況　・授業態度　・文書作成

授業計画		チェック欄
第1回	オリエンテーション、自己紹介	
第2回	就職活動の進め方	
第3回	社会人インタビュー発表、社会人基礎力	
第4回	自己分析ワーク	
第5回	履歴書作成	
第6回	履歴書作成	
第7回	面接について	
第8回	面接練習	
第9回	模擬面接（ヤングハローワーク）	
第10回	模擬面接（ヤングハローワーク）	

区分13	医療秘書科	授業科目名	病院実習オリエンテーション	時間数	10時間（5コマ）
開講時期	前期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関での実習生受入対応

◆授業の目的・目標
・医療人として働くことの姿勢と社会的意義を学ぶ
・社会人としての心構えを身につける
・職場でのコミュニケーション能力を養う
・実習先医療機関について知識を深める

◆授業の概要・授業方針
・病院実習における基礎的なマナーを身につける
・職員や患者とのコミュニケーションを図り、就業に向けての意識を高める
・学校生活と異なり働く充実感や喜びを感じるとともに、職責を果たすことの重要性を培う歓迎会

◆テキスト・参考資料等
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度

授業計画		チェック欄
第1回	・病院実習について	
第2回	・病院実習　提出用　学生票作成	
第3回	・学生票作成	
第4回	・実習先への電話連絡の仕方・練習	
第5回	・実習ノートの書き方　行く前の注意事項等　お礼状について	

区分1	医療秘書科	授業科目名	医療事務	時間数	64時間 （32コマ）
開講時期	後期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の 実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関での診療報酬業務（医業収益関連）
・保険審査・査定・返戻対策に関する業務
・外来・入院、請求・点検業務
・医事システム関連業務
・診療情報管理業務

◆授業の目的・目標
・医療保険制度の理解
・医療事務技能審査試験（メディカルクラーク）の検定対策
・医療秘書技能検定検定対策
・ORCA（医事コンピュータ）検定対策
・手話検定対策

◆授業の概要・授業方針
・窓口業務から診療報酬明細書（レセプト）の医療事務の基礎を学ぶ
・多種類の法律の制約をうけ、法令に基づき医療の専門職として医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律・法規等を理解する
・医療機関は多種類の法律の制約をうけ、法令に基づく仕事が多いことから、医療の専門職として医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律・法規等を理解する・各法律・法規等を理解する法律・法規等を理解する
・座学と実技の双方で社会人基礎知識を論理的に身につける

◆テキスト・参考資料等
・医療事務講座1～4・スタディブック
・各検定受験対策・問題集
・診療点数早見表
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・確認小テスト
・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第2回	初診・再診から画像診断まで復習)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第3回	・模擬試験（1回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第4回	・模擬試験（1回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第5回	・模擬試験（1回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】・解釈・質問	
第6回	・模擬試験（2回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第7回	・模擬試験（2回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第8回	・模擬試験（2回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】・解釈・質問	
第9回	・模擬試験（3回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第10回	・模擬試験（3回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第11回	・模擬試験（3回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】・解釈・質問	
第12回	・模擬試験（4回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第13回	・模擬試験（4回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】	
第14回	・模擬試験（4回目)【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】・解釈・質問	
第15回	・模擬試験（1回目)（医療秘書技能検定）	
第16回	・模擬試験（1回目)（医療秘書技能検定）	
第17回	・模擬試験（1回目)（医療秘書技能検定）・解釈・質問	
第18回	・模擬試験（2回目)（医療秘書技能検定）	
第19回	・模擬試験（2回目)（医療秘書技能検定）	
第20回	・模擬試験（2回目)（医療秘書技能検定）・解釈・質問	
第21回	・模擬試験（3回目)（医療秘書技能検定）	
第22回	・模擬試験（3回目)（医療秘書技能検定）	
第23回	・模擬試験（3回目)（医療秘書技能検定）・解釈・質問	
第24回	・模擬試験（4回目)（医療秘書技能検定）	
第25回	・模擬試験（4回目)（医療秘書技能検定）	
第26回	・模擬試験（4回目)（医療秘書技能検定）・解釈・質問	
第27回	・模擬試験（5回目)（医療秘書技能検定）	
第28回	・模擬試験（5回目)（医療秘書技能検定）	
第29回	・模擬試験（5回目)（医療秘書技能検定）・解釈・質問	
第30回	・グループ学習（総合復習・質問）	
第31回	・グループ学習（総合復習・質問）	
第32回	前期定期試験対策	

区分2	医療秘書科	授業科目名	医療実務	時間数	60時間 （30コマ）
開講時期	後期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の 実務経験	有・無

◆実務経験の内容
・総合窓口、会計、診療報酬請求事務等業務
・行政機関との公費取り扱い業務

◆授業の目的・目標
・医療秘書に求められる医学・医療の知識を持ち、医療現場や臨床研究における医師の事務業務、ヒトやモノの段取りをする知識技能を修得し、かつ実践できる。
・ 医療秘書として機密保持とプライバシー保護の意識を持ち、責任感と品位を身につけ、他者に配慮し信頼を得ることができる
・昨今の医療問題の背景や現状を考え、解決するための基礎的知識を身につける
・関係法規の主な分野である法の概念・看護法・医事法・保健衛生法・薬務法・環境衛生法・社会保険法・福祉法・労働法と社会基盤整備・環境法について、目的と内容について理解する

◆授業の概要・授業方針
・医療・福祉の諸制度を体系的に理解できるよう授業を進めていく
・医療現場での体験談を交えながら、わが国の医療の現状についても分かりやすく解説する
・代社会における関係法規の目的と内容について網羅的に学ぶ。関係法規を取り巻く近年の状況についても理解を深める
・単に知識として学ぶだけではなく、看護等との関係はどうなのかについて、他の科目で学んだことや日常生活や実習での経験、さらに書籍・テレビ・新聞・インターネットなどのメディア情報とも関連づけて理解する

◆テキスト・参考資料等
・「医療秘書」「医療概論」
・「医療事務に必要な医学用語辞典」
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・定期試験

授業計画		チェック欄
第1回	・復習3（医療法と医療提供施設）	
第2回	・復習4（医療保険制度）	
第3回	・復習5（保険診療と自由診療・公費）	
第4回	・医療事務技能認定試験【模擬テスト】	
第5回	・医療事務技能認定試験【模擬テスト】	
第6回	・医療事務技能認定試験【模擬テスト】	
第7回	・医療事務技能認定試験【模擬テスト】	
第8回	・医療事務技能認定試験【模擬テスト】	
第9回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第10回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第11回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第12回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第13回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第14回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第15回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第16回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第17回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第18回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第19回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第20回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第21回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第22回	・医療秘書検定試験対策問題（2級）	
第23回	・医療秘書検定試験対策問題（3級）	
第24回	・医療秘書検定試験対策問（2級）	
第25回	・グループ学習（総合復習・質問）	
第26回	・グループ学習（総合復習・質問）	
第27回	・グループ学習（総合復習・質問）	
第28回	後期期末試験対策	
第29回	後期期末試験対策	
第30回	後期期末試験対策	

区分3	医療秘書科	授業科目名	患者接遇	時間数	10時間 （5コマ）
開講時期	後期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・窓口対応
・診療費の説明

◆授業の目的・目標
・応対の基本
・言葉遣いの基本
・医療事務技能認定試験【実技Ⅰ】検定対応

◆授業の概要・授業方針
・患者接遇の基本を学び、就業に向けて社会人としてのマナーを身に着ける
・電話対応に苦手意識を持たないように練習を行う

◆テキスト・参考資料等
・医療事務技能認定試験受験対策
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度

授業計画		チェック欄
第1回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第2回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第3回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第4回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	
第5回	・【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	

区分4	医療秘書科	授業科目名	医療知識	時間数	60時間 （30コマ）
開講時期	後期	担当教員	松田　一之	担当教員の 実務経験	有・無

◆実務経験の内容

1982年～長崎市立市民病院にて、病理検査、輸血・移植検査、免疫検査、微生物検査、緊急検査業務など検体検査全般を担当。1997年～長崎市立市民病院にて、循環器系検査、神経・筋機能検査、呼吸器系検査、感覚機能検査、画像検査など、生理機能検査全般をを担当。2010年～長崎みなとメディカルセンター（旧長崎市立市民病院）にて、臨床検査部技師長業務の傍ら超音波検査など生理機能検査全般を担当。2015年～長崎みなとメディカルセンター事務部にて、診療報酬関連、病院経営管理などを担当。以上、39年間の病院勤務実績あり。

◆授業の目的・目標

現場で求められる最低限の基礎的・基本的な医学知識の習得と、医療秘書検定3級・2級の合格。

◆授業の概要・授業方針

医療秘書技能検定3級・2級の過去問を使って試験を実施する。
試験の模範解答および解説を行う。

◆テキスト・参考資料等

基礎医学（医療秘書教育全国協議会）

◆成績評価の方法

定期試験で評価する。

授業計画		チェック欄
第1回	医療秘書検定対策	
第2回	医療秘書検定対策	
第3回	医療秘書検定対策	
第4回	医療秘書検定対策	
第5回	医療秘書検定対策	
第6回	医療秘書検定対策	
第7回	医療秘書検定対策	
第8回	医療秘書検定対策	
第9回	医療秘書検定対策	
第10回	医療秘書検定対策	
第11回	医療秘書検定対策	
第12回	医療秘書検定対策	
第13回	医療秘書検定対策	
第14回	医療秘書検定対策	
第15回	医療秘書検定対策	
第16回	医療秘書検定対策	
第17回	医療秘書検定対策	
第18回	医療秘書検定対策	
第19回	医療秘書検定対策	
第20回	医療秘書検定対策	
第21回	医療秘書検定対策	
第22回	医療秘書検定対策	
第23回	医療秘書検定対策	
第24回	医療秘書検定対策	
第25回	医療秘書検定対策	
第26回	医療秘書検定対策	
第27回	医療秘書検定対策	
第28回	医療秘書検定対策	
第29回	医療秘書検定対策	
第30回	医療秘書検定対策	

区分6	医療秘書科	授業科目名	接遇実習	時間数	24時間 （12コマ）
開講時期	後期	担当教員	萬谷　咲枝	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・医療機関での事務経験
・一般企業での実務経験
・企業研修・公共職業訓練校・大学等で、Microsoft Office講座の講師
・茶道裏千家准教授（茶道歴30年）

◆授業の目的・目標
・基本的な文書作成やレイアウトの設定、図や表の挿入やグラフィックを使った文書作成の技法をWordを活用し作成する知識と技術を身につける
・文書校正などレポート作成などにも活用できる知識や文書作成のルール及び、プレゼンテーション技法も習得する
・日本を代表する伝統文化「茶道」は、幼稚園から大学まで、それぞれの学校教育の場でも広く親しまれてきた。日本の生活総合文化であるとともに、自らの人格を練成し精神性を高めるという創造的な活動である事が、教育界において高く評価されている。季節のうつろいを敏感に感じ取り、心のゆとりを得ることは茶道を通じて学ぶことができる

◆授業の概要・授業方針
・文書校正などレポート作成などにも活用できる知識や文書作成のルール及び、プレゼンテーション技法も習得する
・畳の部屋で挨拶の仕方、歩き方を学ぶ
・薄茶・お干菓子・主菓子をいただく・自分自身で薄茶を点ててみる

◆テキスト・参考資料等

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度

授業計画		担当教員	チェック欄
第1回	・認知症	地域包括支援センター	
第2回	・学校茶道	西田	
第3回	・学校茶道	西田	
第4回	・学校茶道	西田	
第5回	PowerPoint基本操作（病院実習を終えて）	下釜	
第6回	カラーコーディネーター	外勤講師	
第7回	プレゼンテーション技法（病院実習を終えて）	下釜	
第8回	プレゼンテーション技法（病院実習を終えて）	下釜	
第9回	プレゼンテーション演習（病院実習を終えて）	下釜	
第10回	プレゼンテーション演習（病院実習を終えて）	下釜	
第11回	発表会（病院実習を終えて）	萬谷	
第12回	フラワーアレンジメント	外勤講師	

区分7	医療秘書科	授業科目名	Word 実習	時間数	30時間 （15コマ）
開講時期	後期	担当教員	下釜　綾子	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容

医療機関での事務経験、一般企業での実務経験の他、企業研修・公共職業訓練校・大学等で、Microsoft Office講座の講師を務めた。

◆授業の目的・目標

基本的な文書作成やレイアウトの設定、図や表の挿入やグラフィックを使った文書作成の技法をWordを活用し作成する知識と技術を身に付ける。
また、文書校正などレポート作成などにも活用できる知識や文書作成のルールを習得する。

◆授業の概要・授業方針

テキストと課題を使用し、基本的な操作から、実務に即した処理や作成方法のポイントを解説し、授業を進行する。

◆テキスト・参考資料等

よくわかるWord2019（FOM出版）
よくわかるWord2019ドリル（FOM出版）

◆成績評価の方法

受講中の操作状況、成果物の完成度などで習得度を確認し、評価を行う。

授業計画		チェック欄
第1回	Wordの基礎知識	
第2回	〃	
第3回	文字の入力	
第4回	〃	
第5回	文書の作成	
第6回	〃	
第7回	表の作成	
第8回	〃	
第9回	文書の編集	
第10回	〃	
第11回	表現力をアップする機能	
第12回	〃	
第13回	便利な機能・ビジネス文書総合演習	
第14回	〃	
第15回	ビジネス文書総合演習	

区分11	医療秘書科	授業科目名	検定対策	時間数	50時間 （25コマ）
開講時期	後期	担当教員	萬谷　咲枝・岩永　大樹	担当教員の実務経験	(有)・無

◆実務経験の内容
・日医標準レセプトソフト（ORCA）
・医療事務（診療報酬請求）

◆授業の目的・目標
・各検定試験取得の準備
・医事レセプトコンピュータを用いて、医事会計の入力方法を習得
・「日医IT日レセ操作実務者」の認定試験合格を目指す
・電子カルテ3製品を用いて、医療事務の役割を学ぶ

◆授業の概要・授業方針
・日本医師会が提供する「日医標準レセプトソフトORCA」を用い、請求事務全般（日常業務から請求業務）を学ぶ
ORCAは長崎県内の医療機関450件以上で利用されている医事システム
代表的なカルテ事例を用いて講義を進め、日本医師会の認定オペレータ資格を取得する

◆テキスト・参考資料等
・日医標準レセプトソフト（ORCA）
・各検定問題集・レセプト点検攻略ドリル（医療事務　医科）

◆成績評価の方法
・出席状況
・授業態度
・各検定結果

授業計画		担当教員	チェック欄
第1回	カルテ事例実習1	萬谷	
第2回	カルテ事例実習2	萬谷	
第3回	入力内容の訂正方法、オンライン資格確認、診療報酬改定の動向	岩永	
第4回	【医療事務技能認定試験（メディカルクラーク）】検定対策	岩永	
第5回	カルテ事例実習4	萬谷	
第6回	カルテ事例実習5	萬谷	
第7回	カルテ事例実習6	萬谷	
第8回	カルテ事例実習7	萬谷	
第9回	カルテ事例実習8	岩永	
第10回	カルテ事例実習9	岩永	
第11回	カルテ事例実習10	萬谷	
第12回	検定対策1	萬谷	
第13回	検定対策2	萬谷	
第14回	検定対策3	萬谷	
第15回	検定対策4	岩永	
第16回	検定対策5	岩永	
第17回	検定対策6	萬谷	
第18回	検定対策7	萬谷	
第19回	検定対策8	萬谷	
第20回	検定対策9	萬谷	
第21回	検定対策10	萬谷	
第22回	日医認定オペレータ試験前　事前講習	岩永	
第23回	電子カルテの概要説明、ORCA連動型電子カルテ、一体型電子カルテの紹介	岩永	
第24回	電子カルテの実習（EMシステムズ　Maps for Clinic）	岩永	
第25回	電子カルテの実習（エムスリーDigiKar）	岩永	

区分12	医療秘書科	授業科目名	就職実務	時間数	6時間 （3コマ）
開講時期	後期	担当教員	西村　史	担当教員の実務経験	有・無

◆実務経験の内容
・大学、専門学校での留学生受け入れ業務、経理、教務事務、就職指導経験あり

◆授業の目的・目標
・働くことの意義を知り、自分なりの職業観を養う。
・社会人としての基礎知識とマナーを身につける。
・自己分析を通し、自己理解を深め履歴書作成や面接対策に活かす。
最終的には自分の希望する施設からの内定獲得を目標とする。

◆授業の概要・授業方針
個人ワークの他、グループワークを行いコミュニケーション力の向上を目指す。就業に向けて応募書類作成の充実を図り、模擬面接などを行う。

◆テキスト・参考資料等
・資料配布

◆成績評価の方法
・出席状況　・授業態度　・文書作成

授業計画		チェック欄
第1回	求人検索・求人票の見方	
第2回	就職活動	
第3回	就職活動・日本を取り巻く社会問題について	